農工一

臺灣總督府中央研究所農業部

臺灣總督府

中央研究所農業部報告

第五十六號

「バークシヤー」種ノ齒ノ發育ニ關スル研究

臺灣總督府中央研究所

昭和六年十月

本報告ハ主トシテ當部産「バークシヤー」種ノ頭骨ニ
ヨリ齒ノ發育狀態ニ關シ調査研究セル成績ヲ記述セ
ルモノニシテ一般當事者ノ參考ニ資センカ爲之ヲ印
刷ニ附ス

昭和六年九月

臺灣總督府中央研究所農業部長
農學博士　大島金太郎

臺灣總督府中央研究所 農業部報告 第五十六號

「バークシヤー」種ノ齒ノ發育ニ關スル研究

目次

一 緒言……1

二 豚ノ齒ノ名稱及分類……2

三 齒ノ發育狀態……5

四 結論……33

「バークシヤー」種ノ齒ノ發育ニ關スル研究

技師　柳川秀興

一　緒　言

余ハ臺灣ニ於テ目下盛ンニ飼養セラレツヽアル「バークシヤー」種ノ年齡ニヨル齒ノ發育狀態並ニ其變形ノ狀態ヲ研究セント欲シ昭和二年(1927年)七月以來頭骨標本ノ蒐集ニ着手セリ　而シテ其頭骨ハ盡ク當農業部畜產科飼養ニ係ル種豚ヨリ之ヲ採集シタリ

當部ニ於ケル種豚育成事業ハ遠ク明治三十六年(1903年)當部ノ前身タル元臺灣總督府農事試驗場畜產部ノ事業トシテ開始セラレタルニ始マリ當時 Berkshire 及 Chester White ノ2品種ヲ濠洲ヨリ輸入シテ之カ蕃殖飼養等ノ試驗ニ着手セルヲ以テ嚆矢トス　爾來上記2品種ノ中「バークシヤー」種ノ成績優良ナルニ鑑ミ之カ普及ニ力メ爾後漸ヲ追フテ本島内ニ增殖スルニ至リ昭和四年(1929年)末ノ調査ニ據レハ全島ヲ通シテ洋種豚 22,587 頭、雜種豚 917,632 頭ニ達セリ　而シテ洋種豚總頭數ノ約99%ハ「バークシヤー」種ヲ以テ之ヲ占メ本島ノ養豚事業上頗ル重要視セラルヽニ到レリ　從テ本種ニ關スル諸研究調査ハ本島畜產改良上極メテ重要ナル一事項タルヘシ　而シテ今回余ノ研究ノ如キモ之ニ關聯シテ本種ノ蕃殖並ニ改良上ノ適期ヲ知ル上ニ於テ重要ナル意味ヲ有スルノミナラス一方純正科學ノ立場ヨリ考フルトキ亦頗ル趣味深キモノアルヘシ　尙本研究材料ニ供シタル頭骨ハ次表ニ示スカ如クニシテ其數ニ於テ未タ完シト謂フ能ハサルモ其要點ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘク以テ當事者ノ參考ニ資スルトコロアルヘキヲ信シ茲ニ之ヲ發表スルコトヽセリ

種類	性	年齢又ハ齢	頭数	備考
バークシヤー	牝	1日	3	頭蓋骨ヲ採集シタルモノナリ
同	牝	11日	2	
同	牡	14日	2	
同	牝	14日	1	
同	牡	36日	1	
同	牝	37日	1	
同	牝	88日	1	
同	牝	9箇月	1	
同	牡	11箇月半	1	
同雑種	牡	17箇月	1	
バークシヤー	牝	2歳	1	
同	牡	2歳 7箇月	1	
同	牡	2歳 9箇月	1	
同	牝	2歳[illegible]箇月	1	
同	牝	3歳 3箇月	1	
同雑種	牝	3歳 8箇月	1	
バークシヤー	牡	3歳10箇月	1	
同	牝	4歳 2箇月	1	
同	牝	4歳 4箇月	1	
同	牡	4歳 4箇月	1	
同	牝	5歳 3箇月	1	
同	牡	5歳 6箇月	1	
同	牝	6歳 7箇月	1	
同	牝	8歳 4箇月	1	

尙此外生體ノ儘ニテ檢査ヲ行ヒタルモノハ次ノ如シ(1)生後6日(齢6日)ノモノ一頭、(2)生後25日(齢25日)ヲ經タルモノ1頭、生後8週(齢8週)ノモノ1頭、生後4箇月ヲ經タルモノ1頭、生後5箇月ヲ經タルモノ1頭、生後7箇月ヲ經タルモノ1頭、生後1年1箇月ヲ經タルモノ1頭計7頭ナリ

二　豚ノ歯ノ名稱及分類

豚ノ歯ハ之ヲ3種ニ區別ス(1)門歯(Incisivi)(2)犬歯(Canini)(3)臼歯(前臼歯 Praemolares 及後臼歯 Molares)是ナリ　尙此外ニ乳歯ト永久歯トヲ區別ス　此區別ノ方法ハ2歳以下ノ豚ノ齢ヲ鑑別スルニ重要ナル關係ヲ有ス　家豚及之ト同屬ナル Sus ニ屬スル野猪ノ乳歯ハ28個ノ歯ヨリ

形成ス　卽チ上顎門齒6,下顎門齒6,上顎犬齒2,下顎犬齒2,上顎前臼齒6,下顎前臼齒6是ナリ　乳齒ノ門齒ハ之ヲ表示スルニid(incisivi decidui)ヲ以テス　其最モ中央ノ2箇ヲ鉗齒id1,次ノ2箇ヲ中齒id2,最外方ノ各1箇ヲ隅齒id3トス　乳犬齒(Milchhaken cd, Canini decidui)ハ其形態ニ於テハ乳隅齒ニ酷似セリ　前臼齒ノ乳齒(Die milchbackenzähne, Praemolares decidui)ハpdヲ以テ表示ス　豚ノ永久齒(Das bleibende Gebiss)ハ其生育狀態カ正常(normal)ナル場合ニハ44箇ノ齒ヨリ成立ス卽チ門齒上下顎ニ各6箇犬齒上下顎ニ各2箇,前臼齒ニアリテハ上下顎ニ各8個ツヽ、後臼齒molaren)ニ在リテハ上下顎各6箇ツヽヲ有ス　然ルニ屢々豚ノ個體ニヨリテ上顎ノ隅齒(id3, die oberen Eckschneidezähne)ハ乳齒ノ時代ニノミ存在シ永久齒トシテハ發生セサルモノアリ　余ハ「パークシヤー」種牝4335號及牝4613號ノ上顎ニ於テ此事實ヲ認メタリDettweiler氏等[1]ニ據レハ第四前臼齒(所謂Wolfs-oder Lückzahn卽チp4)ニ在リテハ屢々顎骨ノ左右何レカノ側ニ於テ缺如スルコトアリ又左右兩側共ニ缺如スル場合アリト　余ハ「パークシヤー」種牝4335號ニ於テハ下顎ノ左右兩側,同種牡4909號ニ於テハ下顎ノ左側,「パークシヤー」雜種牝3175號ニ於テハ下顎ノ右側,「パークシヤー」種牡3113號ニ於テハ下顎ノ右側,同種牝2453號ニ在リテハ上下兩顎共左右兩側ニ於テ夫々第四前臼齒(永久齒)カ發生セスシテ缺如セルコトヲ知リタリ　學者ニ依リテハ此第四前臼齒ハ一定年齡ニ達シタル後ニ脫落スルモノナリト爲ス者アリ　然ルニ余カ「パークシヤー」種ニ就テ調査シタル處ニ據レハ生後滿6歲7箇月ノ牝豚ノ上下顎,生後滿8歲4箇月ノ牝豚ノ上下顎ニ於テ何レモ第四前臼齒ハ存在セルカ故ニ此脫落說ハ事實ニ相違セルモノト認ム　卽チ第四前臼齒ハ强力ヲ加ヘテ除去スルカ若シクハ疾病ニ原因シテ脫落スルコトハアリ得ヘキモ恰モ乳齒カ一定ノ時期ニ當リテ自然ニ脫落スルカ如クニ第四前臼齒モ脫落スルモノト爲スノ說ハ「パークシヤー」種ニ在リテハ誤リノ說ナリト謂ハサルヲ得ス　永久齒ノ門齒ハ乳門

1) Fr. Dettweiler u. K. Müller: Lehrbuch der Schweinezucht. 1924. S. 60.

歯ニ代リテ夫々ノ位置ニ發生シタルモノナルコトハ勿論ナリ　然レトモ前者ハ後者ニ比スル時ハ形大強固ニシテ且稜角多シ(Kantig)

永久歯ノ犬歯(Die bleibenden Hakenzähne oder Hauer, c)ハ乳犬歯ニ代リテ發生シタルモノニシテ後者ニ比スル時ハ著シク強大ニシテ牡豚ニ在リテハ全生涯ヲ通シテ常ニ生育ヲ繼續シ強大トナル

前臼歯ノ乳歯(Milchbackenzähne)ハ夫々永久歯ノ前臼歯(Ersatzbackenzähn)ヲ以テ置換サルヽモノナリ　生長後ノ家豚ニ在リテハ永久歯ノ前臼歯ノ後方ニハ顎骨ノ各側ニ3箇ノ後臼歯(drei echte Molaren)存在ス　後臼歯ニハ乳歯ハ存在スルコトナク永久歯ノミ發生ス　而シテ各ノ永久歯ノ表示ハ次ノ如キ方法ニヨルモノトス

門歯ハ夫々次ノ方法ニヨリテ之ヲ表示ス

1) 鉗歯　(das vorderste (mittelste) Paar) = iI (Zangen);

2) 中歯　(das benachbarte, zweite Paar) = iI (Mittelzähne);

3) 隅歯　(das äussere, dritte Paar) = iIII (Eckzähne).

4) 犬歯　(Die bleibenden Hakenzähne oder Hauer) = c (canini).

前臼歯(Prämolaren oder Vorder-Backenzähne)ヲ表ハス方法ハ學者ニ依リテ一樣ナラス　英國ニ於テハ普通前方ヨリ後方ニ向ツテ p1, p2, p3, p4 ト記シ(乳歯ノ前臼歯ヲ表ハスニ pd2, pd3, pd4) ヲ以テス)獨逸[1]ニ於テハ永久歯前臼歯ノ最前方ノモノ(即チ Wolfs-oder Lückzahn)ヲ表ハスニ p4 ヲ以テシ順次 p3, p2 及 p1 ヲ以テ各其前臼歯ヲ表ハス(乳歯ノ前臼歯ハ pd4 ハ存セズトナシ其他ノモノハ夫々 pd3, pd2, pd1 ヲ以テ表ハス)此内 p1 及 pd1 ハ夫々前記ノ歯ノ最モ後方ノモノヲ示スモノトス　而シテ眞ノ後臼歯(die echten Molaren)ハ前方ヨリ後方ニ數ヘテ夫々 m_1, m_2, m_3 ヲ以テ表ハス　依テ著者モ亦獨逸ノ方法ニ據リテ夫々ノ歯ヲ表ハスコトヽセリ

---

1) Fr. Dettweiler u. K. Müller : l. c. p. 61; W. Ellenberger u. H. Baum: Handbuch der vergleichenden Anatomie der Haustiere. 1926. S. 202.

三　齒ノ發育狀態

1) 生產當日ノモノヽ觀察

標本番號 11 號、12 號、13 號「バークシヤー」種牝、母 4056 號 父 2473 號　昭和二年(1927年)七月十日出產、同日夜母豚ニ壓殺サル　齡 1 日

頭蓋骨(上顎骨)ノ測定成績次ノ如シ

性	牝	牝	牝
標本番號	11	12	13
頭蓋骨下緣長[1]	5.8 cm	6.3 cm	6.7 cm
同　上緣長[2]	6.9	7.3	7.6
同　最大幅	4.2	4.6	4.9

今標本11號ニ就テ記センニ次ノ如シ　上顎ニ於テハid1ハ左右2枚共ニ極メテ僅ニ其頂點ヲ顎骨ノ表面ニ露出セリ其高サ 1mm, id3 ハ細長尖鋭ニシテ恰モ犬齒ノ如ク方向ハ外側ニ向ヒ高サ7mmアリ犬齒(cd)ハid3ニ密接シテ生シ細長尖鋭ニシテ外側ニ向ヒ高サ4.5mm アリ前臼乳齒ニアリテハ pd2 ノミ極メテ僅ニ顎骨ノ表面ニ露出セリ其形狀ハ前方幅狹ク後方ハ廣ク橫斷面ハ略等脚三角形ヲ爲ス pd2カ顎骨ノ表面ニ露出セル部分ハ其後部ノミニシテ高サ1mm アリ　茲ニ記スル處ノ高サトハ凡テ顎骨ノ表面ニ露出シタル部分ノミニ就テ計測シタル高サナリ以下高サト記ス場合ハ何レモ同樣ノ意味ナリ　而シテ以上記スル處ノ8箇ノ乳齒ノ內齒龈ヲ破ツテ露出セルモノハid3及cdノ4箇ノミナリ　Dettweiler氏[3]等ニ據レハ前臼齒ノ乳齒ニアリテハ最初ニ出現スル齒ハ pd2 ナリトセリ以テ余カ「バークシヤー」種ニ於テ觀察シタル處ニ一致ス生產當日ノ子豚ノ後頭骨ハ隆起シテ丸味ヲ帶ヒタリ

下顎ノ齒ノ狀態　下顎ニ在リテハid1ハ高サ3mmアリid3及cdハ其形狀及發生ノ方向ハ上顎ノ場合ニ等シク其高サハ夫々6.5mm及5.5mmア

---

1) 後頭孔ノ前緣ヨリ顎間骨ノ前端ニ至ル直線距離ヲ云フ
2) 後頭骨ノ上端 (Genicklamm) ヨリ顎間骨ノ前端ニ至ル直線距離ヲ云フ
3) Fr. Dettweiler u. K. Müller: Lehrbuch d. Schweinezucht. 1924. S. 63

リ　pd1 ハ其頭部ヲ極メテ僅ニ露出セリ此歯ハ前,中及後部ノ3部ニ分レ各部ノ區別明瞭ナリ高サノ最高ハ2.5mm,前後ノ長サハ17mm アリ下顎ニ在リテハ顎骨ノ表面ニ露出セル歯ハ以上述フル處ノ8個ナレトモ歯齦ヲ破ツテ露出シタルモノハid3及cdノ4箇ノミナリ

標本番號12號ノ歯ノ狀態ヲ見ルニ上顎ニ在リテハid1 ハ高サ4.5mm' d3ハ高サ8mm, cdハ6mmアリpd2ノ最高ハ2.5mmアリ　下顎ニ於テ顎骨ノ表面ニ露出シタル乳歯ノ高サハ次ノ如シ

id1 : 4.5mm　id3 : 6.5mm　cd : 7.5mm　pd1 : 2mm

標本番號13號ニ就テ歯ノ狀態ヲ檢スルニ何レモ夫々既述ノ11號及12號ノモノニ酷似セリ　而シテ13號ノ各ノ歯ノ高サヲ測定スルニ次ノ如シ

歯ノ名稱	id1	id3	cd	pd2	pd1
上顎ノ歯	2mm	9mm	6.5mm	2mm	—mm
下顎ノ歯	4	6.5	7.0	—	1.5

以上ヲ要スルニ子豚ノ生産當日ニ在リテハ使用シ得ヘキ歯ハ　id3及cdニシテ上下顎ヲ合シテ8個ノ乳歯ナリトス　是等ノ歯ハ廣濶ナル舌ヲ其間ニ支持シテ哺乳ニ便ニスル作用ヲ爲ス　哺乳時ニ當リテ子豚カ母豚ノ乳頭ヲ保持スルコトノ如何ニ强固ナルカニ就テDettweiler[1]氏等ノ記スル處ニ據レハ母豚カ子豚ヲ哺乳ノ最中ニ何等カノ原因ニテ著シク驚愕スル場合ニハ子豚ハ乳頭ヲ咬ヘタル儘ニテ母豚ト共ニ上方ニ體ヲ高ク擧ケラルヽコトアリト

2) 生後6日ヲ經タル「バークシヤー」種子豚ノ歯ノ狀態

此子豚ハ昭和五年(1930年)七月十七日生レノモノニシテ母ハ4838號父ハ5387號ナリ　同年七月二十四日ニ生體ノ儘ニテ檢査シタルモノナリ

生後6日ヲ經タル「バークシヤー」種子豚ニ在リテハ歯齦ヲ破リテ露出シタル歯ハ次ノ如シ　上顎ニ在リテハid1 : 2,　id3 : 2,　cd : 2,　pd : 2 計8箇ノ露出ヲ見,下顎ニ在リテハid1 : 2,　id3 : 2,　cd : 2,　pd1 : 2 計8箇ノ露出アリ結局上下兩顎ヲ通シテ16箇ノ乳歯カ歯齦ノ表面ニ露出

1) Dettweiler : l. c. s. 62

シタルヲ見ル Dettweiler 氏等ノ記ス處ニ據レハ早熟性ニ富ミタル品種ニアリテハ生後4乃至5日ニシテ既ニ前臼乳齒カ齒齦ノ表面ニ露出スト云ヘリ　余カ觀察スル處ニヨレハ上顎ニ在リテハ pd2 左右2箇下顎ニ在リテハ pd1 左右2箇ハ共ニ此時代ニ露出スルヲ知ル然レモ前臼齒ノ內他ノ齒ハ未タ此時代ニ出現スルニ至ラス　此時代ニ於テ發生スル上顎ノ pd2 カ果シテ pd2 ナリヤ又下顎ニ發生スル pd1 カ果シテ pd1 ナリヤノ斷定ハ容易ニ之ヲ行フコト困難ニシテ余ハ多數ノ幼豚ノ頭蓋骨ノ標本ニツキ調査シタル後初メテ事實ヲ斷定スルコトヲ得タル次第ナリ

3) 生後11日ヲ經タル「バークシャー」種子豚ノ齒ノ狀態

生後11日ヲ經タル子豚ノ頭蓋骨ノ大サハ次ノ如シ

性	牝	牝
標本番號	14	15
頭蓋骨下緣長	7.3 cm	8.0 cm
同　上緣長	8.4	8.9
同　最大幅	5.6	5.9

生產當時ニ於ケル子豚ノ後頭骨ハ著シク隆起シ丸味ヲ帶ヒタルコトハ既述ノ如クナルカ生後11日目ノ子豚ノ頭蓋骨ハ後頭骨カ隆起性ヲ失ヒ寧ロ扁平ノ狀態ニ近ツケルヲ見ル　上顎ノ齒ノ狀態ヲ述フレハ id1 ハ顎骨ノ表面ニ極メテ僅ニ露出シ高サ2mm ニ過キス id3 ハ細長尖鋭ニシテ高サ7mm アリ其中央部ハ褐色ニシテ兩端及內側ハ白色ナリ cd ハ尖鋭細長ニシテ高サ6mm アリ尖端ハ褐色ニシテ基部及內面ハ白色ナリ上顎ノ pd2 ハ稍其大サヲ增加シ齒ノ最高ハ 6mm 前後ノ長サ13mmアリ上顎ニ於テハ以上記スル處ノ8箇ノ乳齒ヲ有スルノミニシテ其他ノ齒ハ未タ顎骨ノ表面ニ露出スルニ至ラス　下顎ノ齒ノ狀態ヲ述フレハ i1 ハ高サ約4mmアリテ其色ハ白シ id3 ハ其色白クシテ高サ5 mmアリ cd ハ高サ4mmアリ下顎ノ pd2 ハ極メテ僅ニ其上端ヲ顎骨ノ表面ニ露出セリ卽チ其高サ1mm前後ノ長サ4mmアリ

pd1ハ稍成長シ其最高ハ5mm,前後ノ長サハ11mmアリ下顎ニ在リテハ顎骨ノ表面ニ露出シタル歯ハ以上述フル處ノ10箇ノ乳歯ニシテ他ノ歯ハ未タ露出スルニ至ラス上下兩顎ノ歯ヲ合スル時ハ歯數ノ合計ハ18箇トナル而シテ盡ク乳歯ナリトス

4) 生後14日ヲ經タル「パークシヤー」種ノ歯ノ狀態

生後14日ノ「パークシヤー」種ノ頭蓋骨ニ在リテハ後頭骨ノ形狀ハ略生後11日ノモノニ等シキモ極メテ僅ニ後頭骨ノ扁平ノ程度ヲ增加シタル傾キアリ　頭蓋骨ノ大サハ次ノ如シ

性	牡	牡	牝
標本番號	18	16	19
頭蓋骨下緣長	6.8 cm	—	7.3 cm
同　上緣長	7.9	—	8.2
同　最大幅	5.1	6.2	5.4

上顎ノ歯ノ狀態　生後14日ヲ經タル「パークシヤー」種ニアリテハid1ハ高サ約4mmアリ卽チ生後11日目ノモノニ比シテ約2mmノ增加ヲ來シタリ歯ノ色ハ白色ナリid3ハ高サ8mmアリ生後11日目ノモノニ比シ約1mmノ增加ナリ　此歯ノ色ハ基部白色ニシテ其他ハ淡褐色ヲ呈スcdハ高サ7mmアリ生後11日目ノモノニ比シ1mmノ增加ナリトス　pd2ハ其高サ5mmニシテ生後11日目ノモノニ比シ殆ト變化無シ,其前後ノ長サハ14mmアリ上顎ノ歯ハ以上述フル處ノ8箇ノミ顎骨ノ表面ニ露出セリ

下顎ノ歯ノ狀態　id1ハ高サ6mmアリ其色白色ナリid3ハ汚白色ニシテ其長サ7mmアリcdハ高サ6mmアリpd2ハ高サ1mm,前後ノ長サ6mmアリpd1ハ高サ5mmアリ其前後ノ長サハ約17mmアリ　下顎ニ在リテハ以上述フル處ノ10箇ノ乳歯ヲ有ス其各ノ歯ノ大サヲ生後11日目ノ夫レト比較スルニid1ハ高サニ於テハ2mm, id3ハ高サ2mm增加シcdハ2mm, pd2ニ在リテハ高サ0mm各々增加シタルコトヲ示セリDettweiler氏等[1]

1) Dettweiler: l. c. p. 63.

ハ此時代ニ於テ上顎ニ在リテハpd2,下顎ニ在リテハpd3ハ夫々晩クモ出現スル旨ヲ記シタリ余ノ觀察スル處ニヨレハ下顎ニ於ケルpd3ハ此時代ニ於テハ顎骨ノ表面ニ於テスラ未タ出現セサルコトヲ知リタリ　生後14日ヲ經タル「パークシヤー」種ニ在リテハ上顎ニ8箇,下顎ニ10箇計18箇ノ歯ヲ有スルヲ知ル　而シテ是等ノ歯ハ盡ク乳歯ナリ

(標本番號16號「パークシヤー」種牡,耳標148號,母4522號,父3958號,昭和二年(1927年)六月三十日生レ同年七月十四日斃死ス死因ハ悪性下痢　標本番號18號牡,耳標170號,母2473號父4056號,昭和二年(1927年)七月十日生レ同年七月二十四日斃死ス標本番號19號「パークシヤー」種牝,耳標169號,母2473號父4056號,昭和二年(1927年)七月十日生レ同年七月二十四日斃死ス)

5) 生後25日ヲ經タル「パークシヤー」種ノ歯ノ狀態

生後25日ヲ經タル「パークシヤー」種ノ歯ノ狀態ヲ知ランカ爲ニ生體ノ儘檢査スルニ(昭和五年(1930年)六月三十日生レ同年七月二十五日檢,母豚登錄番號3481號)上顎ニ在リテハid1ハ2箇ニシテid2ハ存在セスid3及cdハ各2箇ツヽ存在シpd2ハ左右2箇發生シタリ　上顎ニ於テハ齒齦ヲ破リテ其表面上ニ露出シタル歯ハ以上記スル處ノ8箇ニシテ盡ク乳歯ナリ　下顎ノ歯ニ在リテモ乳歯ノミヲ見ル　卽チid1:2, id3:2,cd:2, pd1:2合計8箇ナリ　故ニ上下兩顎ノ歯數ヲ合スル時ハ16箇トナル

Dettweiler 氏等ハ生後2乃至4週日ニシテ子豚ノ上顎ニ於テpd3カ露出(durch brechen)スル旨ヲ記シタリ(l. c. p. 63)　然ルニ余ノ觀察ニヨレハ全々事實ニ非ラサルコトヲ知リタリ　而シテ同氏ハ又上述ノ時期ニ於テid1モ亦露出スルナラント記セルモ(l. c. p. 63)余ノ觀察スル處ニヨレハ生後6日ニシテ既ニ歯齦ノ表面ニ露出シタルヲ認メタリ

6) 生後36日ヲ經タル「パークシヤー」種牡ノ歯ノ狀態

「パークシヤー」種牡,耳標129號,母4466號父4419號　昭和二年(1927年)六月一日生レ同年七月七日斃死

上顎ノ歯ノ狀態　id1ハ高サ6mmアリid2ハ其尖端ノミ小點トシテ顎骨ノ表面ニ露出スid3ハ其形狀細長尖銳ニシテ高サ10mmアリ卽チ生

後14日ノモノニ比シ2mm ノ増加ナリ cdハ細長尖鋭ニシテ高サ9mmアリ卽チ生後14日ノモノニ比シ2mm ヲ増加シタリ　前臼乳歯ノ内 pd3ハ其尖端ノミ極メテ小サキ點トシテ顎骨ノ表面ヨリ見ルコトヲ得 pd2ハ前臼乳歯中最初ニ發生シタル歯ニシテ最高7mm,前後ニ測リタル長サ14mmアリ　卽チ生後14日ヲ經タルモノニ比シ高サニ於テ2mmノ増加ニシテ長サニ於テハ變化無シ　pd1ハpd2ノ後方ニ接シテ發生シ其一部ノミ外側ヨリ見ルコトヲ得 最高ハ約3mm,内外ノ幅ハ9.5mm,前後ニ計リタル長サ12.5mmアリ　上顎ニ於ケル歯數ハ以上述フル處ノ10箇ナリ

下顎ノ歯ノ狀態　id1ハ尖鋭ニシテ高サ12mm アリ id2ハ其尖端ヲ極メテ僅ニ顎骨ノ表面ニ露出セリ高サ1mm アリ id3 ハ細長尖鋭ニシテ高サ6mmアリ cdハ細長尖鋭ニシテ高サ9mmアリ前臼歯ニ在リテハpd1ハ最高7mm,内外ノ厚サ8mm,前後ニ測リタル長サ18mmアリ pd2ハ最高7mm,前後ニ測リタル長サ9mm,内外ノ厚サノ最大ハ5mmアリ pd3ハ其尖端ノミ極メテ僅ニ見ルコトヲ得　下顎ノ歯ハ以上述フル所ノ10箇ニシテ其他ニハid2カ極メテ僅ニ頭部ヲ顎骨ノ表面ニ露出シタルニ過キス　上下兩顎ノ歯數ヲ合スル時ハ合計20箇ニシテ盡ク乳歯ナリ　今耳標129號ノ頭蓋骨ノ測定ノ結果ヲ記ス時ハ次ノ如シ

バークシヤー種牡129號

標本番號	1
頭蓋骨下緣長	8.5 cm
同　上緣長	9.5
同　最大幅	6.55

7) 生後37日ヲ經タル「バークシヤー」種牝ノ歯ノ狀態

「バークシヤー」種牝、耳標126號、母4466號 父4419號　昭和二年(1927年)六月一日生レ同年七月八日死ス

今126號ノ頭蓋骨測定ノ結果ヲ記セハ次ノ如シ

標本番號	2 (耳標126號)
頭蓋骨下緣長	8.6 cm
同　上緣長	9.7
同　最大幅	6.5

上顎ノ齒ノ狀態　id1ハ高サ6mm,基部ニ於テ測リタル前後ノ長サ7.5mmアリid2ハ其尖端ノミ小點トシテ顎骨ノ表面ニ露出ス其露出部ノ直徑ハ1mmアリid3ハ細長尖鋭ニシテ高サ8mmアリcdハ細長尖鋭ニシテ高サ7mmアリ之ヲ生後14日ノモノニ比較スルニ少シモ伸長シタルヲ認メス而シテ更ニ之ヲ生產當日ノ子豚ノ夫レニ比較スルニ殆ト相等シ　卽チ知ル子豚ノcd及id3ハ其大サニ於テハ殆ト生產當日ト同一ニシテ生產後37日ヲ經過シタルモノニ就テ見ルモ尙大サニ變化ナシ　前臼乳齒ノ內pd3及ソレニ接シテ前方ニ位スルpd4(余カpd4ト特ニ命名シタルモノナリ)ハ其尖端ノミ小點トシテ顎骨ノ表面ヨリ見ルコトヲ得　pd2ハ屢々pd1ナリトミラルヽコトアリ然ルニ其形態ハ特徵ヲ有シ略等脚三角形ヲ呈シ前方狹ク後方廣シ　pd2ノ最高ハ7mm,前後ノ長サ12.5mmアリ　pd1ハ尙其大部分ハ顎骨ノ內ニ隱レタリ　露出部ノ最高ハ6mm,內外ノ幅ハ10.5mm,前後ノ長サ13mmアリ　上顎ニ於テハ齒數ノ總計ハ以上述フル處ノ10箇ナリ　下顎ハ破損シ檢スルヲ得ス

8) 生後88日ヲ經タル「パークシヤー」種ノ齒ノ狀態

「パークシヤー」種牝、耳標97號、母3078號父4419號　昭和二年(1927年)四月二十七日生レ同年七月二十四日下痢症ニテ斃死ス

上顎ノ齒ノ狀態　id1ハ幅廣ク强固ニシテ高サ10mmアリid2ハ極メテ僅ニ露出シ高サ1mmアリ其前後ニ測リタル長サハ4mm,アリ　id3ハ細長ナレトモ其尖端ハ磨滅シ破損セリ高サ7mmアリcdハ細長尖鋭ニシテ最高8mmアリpd4ハ灰白色ノ小點トシテ其尖端ヲ顎骨ノ表面ヨリ見ルコトヲ得ルモ未タ露出スルニ至ラスpd3ハ高サ5.5mm,前後ノ長サ8.5mmアリpd2ハ最高9mm,前後ノ長サ12mmアリpd1ハ其大サヲ增加シ最高9mm,前後ノ長サ13mmアリm_1(永久齒)ハ深ク顎骨內ニ其小部分ヲ見ルコトヲ得上顎ノ齒ハ以上記スル處ノ14箇ニシテ盡ク乳齒ナリ

下顎ノ齒ノ狀態　id1ハ著シク其長サヲ增シ15mmニ達ス其尖端ハ極メテ僅ニ磨滅セリid2ハ著シク其長サヲ增加シ10.5mmアリid3ハ其形狀及長サニ於テ變化無ク形態細長尖鋭ニシテ高サ7mmアリcdハ細長

ナレトモ其尖端ハ少シク磨滅セリ高サ8mm アリ下顎ノ乳犬歯カ磨滅シ始ムルハ生後 88 日前後ナルコトヲ知ル　前臼乳歯ニ在リテハ pd4 ハ其尖端カ小點(直徑2mm)トシテ顎骨ノ表面ニ露出セリ卽チ下顎ニ在リテハ此歯ハ生後88日前後ニ於テ初メテ顎骨ノ表面ニ露出スルコトアルヲ知ル pd3 ハ高サ 4mm,前後ノ長サ 7mm アリ pd2 ハ高サ 10mm,前後ノ長サ10mm アリ pd1 ハ前部,中部,後部ノ3部ニ分レ最高ハ 8mm アリ前後ニ測リタル長サハ19mm アリ內外ニ計リタル厚サノ最大ハ 8.5mm アリ厚サハ後部最モ厚ク高サハ前部最高ナリ　第一後臼歯(m_1)ハ其頭部ヲ顎骨ノ表面附近マデ出シ來リタレトモ未タ表面ニ露出スルニ至ラス　要スルニ下顎ニ在リテハ顎骨ノ表面ニ露出シタル歯數ノ合計ハ14箇,上下兩額ノ歯數ノ合計ハ28箇ニシテ盡ク乳歯ナリ

9) 生後118日ヲ經タル「バークシヤー」種ノ歯ノ狀態

「バークシヤー」種,母番號5677號父番號5597號　昭和五年(1930年)三月三十日生レ同年七月二十六日生體ノ儘檢査ス

上顎ノ歯ノ狀態　id1 ハ2個ニシテ id2 ハ2箇共ニ歯齦ヲ破リテ露出スレトモ大サハ極メテ小形ニシテ單ニ形ヲ認メ得ル程度ニ過キスid3及cdハ何レモ細長尖鋭ナリ前臼歯ニ在リテハ pd1, pd2 ハ左右各2箇ツヽ夫々大サヲ增シ來リ pd3ハ尙小形ナリ pd4ハ全々見ルコトヲ得ス m_1 其他後臼歯ハ全々見ルコトヲ得ス　上顎ニアリテハ歯齦ノ表面ニ露出シタル歯ハ以上述フル處ノ14箇ニシテ盡ク乳歯ナリ

下顎ノ歯ノ狀態　其總歯數ハ14箇ニシテ id1, id2, id3, cd, pd1, pd2, pd3 各2箇ツヽナリ　依テ上下兩顎ノ歯數ヲ合スル時ハ28箇ナリトス

10) 生後150日ヲ經タル「バークシヤー」種ノ歯ノ狀態

母5332號父5396號檢査豚ハ昭和五年(1930年)二月二十六日生ニシテ同年七月二十六日生體ノ儘檢査シタルモノナリ

上顎ノ歯ノ狀態　生後150日ヲ經タル「バークシヤー」種豚ノ上顎ノ歯數ハ14箇ニシテ生後 118 日ヲ經タルモノト同數ナリ然ルニ前者ハ次ノ諸點ニ於テ後者ト相違セリ　a) id2ハ其大サヲ增加シ生後 118 日ノ

豚ニ於テ見タルカ如キ形跡(trace)ノ狀態ヲ呈セサルコト　b) pd3カ其大サヲ增シタルコト

下顎ノ齒ノ狀態　生後150日ヲ經タル豚ニ在リテハ下顎ノ齒數ハ16箇ナリ卽チid1, id2, id3, cd, pd3, pd2, pd1, m_1カ左右2箇ツヽ存在スルニヨルモノナリ　卽チ生後5箇月ノ頃ニ下顎ノm_1ハ齒齦ヲ破ツテ露出スルコトヲ知ル

11) 生後206日ヲ經タル「バークシヤー」種ノ齒ノ狀態

母4055號父5237號檢查豚ハ昭和五年(1930年)一月一日生レニシテ同年七月二十六日檢查シタルモノナリ

上下顎ノ齒ノ狀態　生後約7箇月ヲ經タル「バークシヤー」ノ上顎ニハ18箇ノ齒ヲ有ス　卽チid1, id2, id3, cd, pd4, pd3, pd2, pd1, m_1是ナリ　下顎ニ在リテハ齒數ノ合計ハ上顎ニ於ケルト同數ニシテ卽チ id1, id2, id3, cd, pd4, pd3, pd2, pd1, m_1ノ18箇是ナリ

12) 生後9箇月ノ「バークシヤー種ノ齒ノ狀態

「バークシヤー」種牝4483號、母3462號父3484號　昭和元年(1926年)一月二十七日生レ同年十月二十六日肉用ノ爲屠殺ス

上顎ノ齒ノ狀態　生後9箇月ヲ經タル「バークシヤー」種牝ニアリテハ其上顎ノ齒數ハ18箇ナリ id1 ハ左右共ニ其基部後方ニ永久齒 iI カ將ニ顎骨ノ表面ニ露出セントシテ其頭ヲ表ハスヲ見ル id1 ノ最高ハ8mm アリ其末端部ハ著シク磨滅セリ右側ノ id1 ノ內側ニハ直徑7.5mmノ圓キ穴ヲ生シ此穴ノ內側ヨリ iI (永久齒)カ美ハシキ白色ノ頭部ヲ僅ニ示セリ左側ノ id1 ハ其內側ニ當リテ直徑2mm ノ小サキ穴ヲ生シ其內ニ iI(永久齒)ノ頭端ヲ僅ニ見ルコトヲ得　惟フニ上顎ニ在リテハid1カ iI ニ交替シ始ムルハ生後9箇月目ノ頃ナリ門齒ノ內,中齒ハ右側ニ在ルモノハ尙乳齒 (id2) ノ儘ニシテ末端ハ著シク磨滅シ其磨滅面ノ長サハ8mm, 幅ハ3mm アリ此右側中齒(id2)ノ高サハ4mm アリ以テ此齒カ著シク磨滅シタルコトヲ知ルニ足ル左側ニ在リテハ中齒ハ旣ニ永久齒(iI)ニシテ卽チ上顎ノ中齒カ永久齒ニ交替スルノ時期ハ生後9箇月目ノ頃

ナルコトヲ知ル左側ノiIIハ白色ニシテ前後ノ長サ9mm,幅ノ最大ハ2.5mm,高サノ最大ハ3mmアリ上顎ノ隅歯ハ左右共ニ既ニ永久歯ナリ卽チid3ハ生後8乃至9箇月ノ頃永久歯ト交替スルコトヲ知ルiIIIハ高サ4.5mm,前後ノ長サ8mmアリ歯冠ノ尖端ハ淡キ褐色ヲ呈シ其他ノ部分ハ白色ナリ　犬歯ハ左右共ニ既ニ永久歯ヲ生セリ其高サ3mmニシテ白色ナリ犬歯ノ永久歯カ初メテ上顎ニ露出スルハ生後8箇月ヨリ9箇月ノ頃ナルヲ知ル　第四前臼歯ハ未タ發生セス第三前臼歯ハ尙乳歯ノ儘ナリ第二前臼歯モ乳歯ノ儘ニ殘存セリ其歯冠部ハ著シク磨滅シ殆ト歯根ノミ殘存セリ磨滅面ハ幅5mm,長サ10mm,高サ5mmアリ　要スルニ第二前臼乳歯ハ生後9箇月ノ「バークシヤー」種ニアリテハ著シク磨滅シ將ニ脫落ノ期ノ近キヲ思ハシム　第一前臼歯ハ依然乳歯ノ儘ニ殘存セリ其歯冠部ハ著シク磨滅シ前部及後部共ニ中央ハ稍凹メリ其磨滅面ノ幅ノ最大ハ8mm,長サ11mm,高サ7mm,アリ第一後臼歯(m_1)ハ永久歯ニシテ左側ノ歯ハ歯冠ノ尖端部ノミ僅ニ磨滅セリ右側ノm_1ノ歯冠部ハ著シク磨滅シ前後部共ニ歯質凹メリ此歯ノ高サハ8mm,幅10mmアリ而シテ前後ノ長サハ13mmアリ　第二後臼歯(m_2)ハ永久歯ニシテ未タ磨滅シタル部分ヲ存セス殆ト完全ナリ其長サ17mm,高サ10mm幅15mmアリ何レモ最大ノ測數ヲ示ス　第三後臼歯(m_3)ハ尙顎骨内ニ在リ直徑約13mmノ大ナル窖内ニ其歯冠ノ一部ヲ示セトモ未タ顎骨ノ表面ニ突出スルニ至ラス　要スルニ上顎ニ在リテ第三後臼歯カ露出ヲ始ムルハ生後9乃至10箇月ノ頃ナリ　生後9箇月ノ「バークシヤー」種ニ在リテハ上顎ノ歯數ハ以上記スル處ノ永久歯10箇,乳歯9箇ナリ生後9箇月ノ豚ノ上顎骨ノ下緣長ハ20.4cm,上顎骨ノ上緣長ハ20.8cm,上顎骨ノ最大幅ハ14.15cmアリ

下顎ノ歯ノ狀態　門歯ニ在リテハ鉗歯(id1)及中歯(id2)ハ尙乳歯ノ儘ニテ殘存セリ隅歯ハ左右共紛失シ檢スルコトヲ得ス犬歯(c)ハ乳歯ハ既ニ脫落シテ存在セス永久歯ハ未タ顎骨内ニ在リテ露出スルニ至ラス　卽チ下顎ニ在リテハ犬歯カ初メテ顎骨ノ表面ニ露出スルハ生後

9 乃至10箇月ノ頃ナルコトヲ知ル

前臼歯ニ在リテハ第四前臼歯(p4)ハ左右共其歯冠部ノ頂部ヲ顎骨ノ表面ニ露出セリ其高サ2mm,前後ノ長サ6mm,幅ハ3mmアリ　第三前臼歯(pd3)ハ未タ乳歯ノ儘ニ殘存ス pd2 モ pd1 モ亦乳歯ノ儘ニ殘存ス m_1 ハ永久歯ニシテ長サ16mm,幅12mm,高サ9mmアリ(m_2)ハ永久歯ニシテ其頭ヲ極メテ僅ニ顎骨ノ表面ニ露出セリ(m_3)ハ全々顎骨内ニ位置シ未タ露出スルニ至ラサレトモ顎骨ノ上面ニ生シタル裂隙ヨリ其形態ヲ見ルコトヲ得　要スルニ下顎ニ在リテハ m_3 ノ初メテ顎骨ノ表面ニ露出スルハ生後9箇月ノ頃ナリ　生後9箇月ノ「パークシヤー」ノ歯數ハ上顎ニ於テ19箇,下顎ニ於テ20箇ヲ通シ計39箇ナリ

13) 生後13箇月ノ「パークシヤー」種ノ歯ノ狀態

「パークシヤー」種母5345號、父4056號　昭和四年(1929年)六月十七日生レ昭和五年(1930)七月三十日生體ノ儘檢ス

上下顎ノ歯ノ狀態　上顎ニ在リテハ第三後臼歯タル m_3 カ未タ齒齦ヲ破ツテ露出セス其他ノ歯ニ至リテハ凡テ永久歯ナリ　上顎ニ於ケル歯數ノ合計ハ20箇ナリ　下顎ノ歯ノ狀態ヲ檢スルニ上顎ニ於ケルカ如ク第三後臼歯(m_3)ハ未タ露出スルニ至ラスシテ歯數ノ合計ハ20箇ナリ　故ニ上下顎ノ歯數ハ計40箇ナリ

14) 生後17箇月ヲ經タル「パークシヤー」雜種ノ歯ノ狀態

「パークシヤー」雜種牡3179號、母臺灣在來桃園種2194號父「パークシヤー」種1847號　大正十二年(1923年)五月四日生レ同十三年(1924年)十月三日拂下シタル後間モ無ク屠殺、頭蓋骨ノ下緣長ハ 26.3cm アリ其上緣長ハ29.4cm, 最大幅ハ 16.3cm アリ

上顎ノ歯ノ狀態　門歯ノ鉗歯ハ永久歯ニシテ強ク左右ヨリ内方ニ延ヒ尖端鋭ク未タ磨滅シタル箇所ヲ殆ト認メス基部ヨリ尖端マテノ距離ハ21mmアリ而シテ前後ノ方向ニ測リタル長サハ約10mmアリ歯ノ色ハ尖端附近ハ淡汚褐色ニシテ基部ハ黑シ中歯ハ永久歯ナレトモ其尖端カ殆ト未タ顎骨ノ表面ヲ出テスシテ前後ニ計リタル長サハ13m

m, 幅ノ最大ハ 5mm アリ隅歯ハ永久歯ナレトモ其形態ハ短小尖鋭ニシテ高サ7.5mm,前後ノ幅ノ最大ハ6.5mmアリ而シテ左右ニ測リタル幅ハ4mmアリ犬歯(c)ハ永久歯ニシテ未タ顎骨ノ表面ニ著シク伸長セス卽チ基部ヨリ頂點ニ至ル距離ハ23mmアリ其形體ハ短小尖鋭ニシテ未タ磨滅シタル部分ナシ

第四前臼歯ハ永久歯ニシテ其形態短小ニシテ稍扁平ナリ前後ニ計リタル長サハ7mm,高サ6mm 厚サ4mm アリ　第三前臼歯(p_3)ヨリ第三後臼歯ニ至ルマテ凡テ永久歯ナリp3ハ前後ノ長サハ11.5mm,高サ9.5mm,幅ノ最大ハ7mm アリ殆ト完全ニシテ磨滅シタル部分ナシ　第二前臼歯ハ前後ニ計リタル長サ12mm高サノ 高12mm,厚サノ最大ハ12mm アリ殆ト完全ニシテ磨滅シタル部分ナシ　第一前臼歯ハ前後ニ計リタル長サ11mm,高サ12mm,厚サ14mm アリ殆ト完全ニシテ尖端ハ極メテ僅カニ磨滅シタル外原形ヲ保テリ

後臼歯ニアリテハ第一後臼歯(m_1)ハ歯冠部ノ上面ハ著シク磨滅シ殆ト平坦ノ狀ヲ爲セリ歯質(Dentinsubstanz)ハ未タ露出スルニ至ラスm_1ハ前後ノ長サ16mm,幅ノ最大ハ12.5mm,高サノ最大ハ 10mm アリ第二後臼歯(m_2)ハ前後ノ長サ20mm,内外ニ測リタル幅15mm高サ11mm アリ琺瑯質部ハ僅ニ磨滅シタレトモ歯質部ハ未タ露出スルニ至ラス第三後臼歯(m_3)ハ尚其大部分ハ顎骨内ニ僣在セリ其表面ニ突出シタル部分ハ高サ僅ニ6mm ニ過キス　外部ヨリ見得ヘキ部分ヲ測定スルニ前後ノ長サ20mm,内外ニ測リタル幅ノ最大ハ14mm アリ上顎ニ在リテハ歯數ノ合計ハ22箇ナリ

下顎ノ歯ノ狀態　生後17箇月ノ「バークシヤー」雜種ノ下顎ノ歯ニ在リテハ總歯數ハ22箇ニシテ就中第四前臼歯左右2箇ト第三後臼歯(m_3)左右2箇ト合計4箇ハ僅ニ其頂部カ顎骨ノ表面ニ露出シタルノミニシテ他ノ18箇ノ歯ハ全部生育ヲ遂ケタルモノナリ　今門歯ヨリ順次其狀態ヲ記スル處アラントス

鉗歯ハ長サ21mm,内外ニ測リタル幅ノ最大ハ8mm,左右ノ幅ノ最大

ハ 6mm アリ尖端ハ極メテ僅ニ磨滅セリ中齒ハ長サ 16mm,幅 7mm,厚サ 7mm アリ中齒ノ尖端ハ殆ト完全ニシテ磨滅シタル處ナシ隅齒ハ紛失シ檢スルコトヲ得ス犬齒(c)ハ長サ 19mm アリ基部ニ於ケル幅ノ最大ハ 9mm アリ尖鋭ナレトモ末端ハ僅ニ磨滅セリ第四前臼齒(p4)ハ其頭部ヲ僅ニ顎骨ノ表面ニ露出シ高サ 2.5mm 內外ニ測リタル厚サハ 3mm 前後ノ長サハ 8mm アリ第三前臼齒(p3)ハ高サノ最大 9mm,前後ノ長サハ 11.5mm,厚サ 5mm アリ　形體完全ニシテ磨滅シタル部分ナシ

第二前臼齒(p2)ハ高サ 12mm,前後ニ測リタル長サハ 12mm,內外ノ厚サハ最大 9.5mm アリ形體殆ト完全ニシテ磨滅シタル部分殆ト無シ第一前臼齒(p1)ハ高サ 12mm,前後ノ［　］サ 12mm,內外ノ幅ハ 9.5mm アリ尖端極メテ僅ニ磨滅シタルノミニシテ他ノ部分ハ完全ナリ第一後臼齒 (m_1) ハ高サ 9mm 前後ノ長サノ最大ハ 16.5mm 內外ニ測リタル厚サハ 10.5mm アリ齒冠部ハ稍著シク磨滅シ琺瑯質ヲ失ヒ齒質露出セリ第二後臼齒(m_2)ハ最高 11mm,前後ノ長サ 21mm,內外ノ幅ハ 14mm アリ Paraconus, Metaconus, Protoconus, Hypoconusハ何レモ其琺瑯質ノ大部分ヲ磨滅シ盡セリ　但 Cingulumハ完全ニシテ未タ磨滅シタル部分ナシ　齒質部ハ未タ少シモ露出スルニ至ラス　第三後臼齒 (m_3) ハ未タ完全ニ發育ヲ終了セス卽チ左側ノ齒ノ Paraconus ハ高サ 9.5mm アリ Protoconus ハ 11mm, Metaconus ハ 4mm, Hypoconus ハ 3mm アリ Cingulum ハ未タ顎骨ノ外側ニ表現スルニ至ラス各 conus ハ何レモ磨滅シタル部分少シモナシ　下顎ノ齒ハ以上述フル處ノ 22 箇ニシテ盡ク永久齒ナリ　就中未タ發育ヲ完了セサルモノハ p4 2 箇ト m_3 2 箇トニシテ計 4 箇ナリ

15) 生後滿 2 箇年ヲ經過シタル「パークシヤー」種牝ノ齒ノ狀態

「パークシヤー」種牝 4335 號,耳標 199 號,母 3353 號父 3484 號　大正十四年(1925年)十月二日生レ昭和二年(1927年)十月三十一日肉用試驗ノ爲屠殺

上顎ノ齒ノ狀態　門齒ノ鉗齒ハ完全ニシテ未タ磨滅シタル部分ナシ長サハ最大 21mm,幅ハ基部ニ於テ 11mm,厚サノ最大ハ 6mm アリ(右側ノ齒ニ就テ測ル)中齒ハ右側ニアリテハ乳齒ハ永久齒ニ壓セラレテ殆

ト脱落セントスル狀態ニアリ永久齒ハ既ニ前後ノ長サ 13mm, 高サ約7mm,厚サ5mm,アリ隅齒ハ左右共ニ未タ發生セス犬齒(c)ハ尙比較的小形ニシテ顎骨ノ表面ニ突出シタル高サハ右側23mm, 左側ノ齒ハ25mmアリ何レモ內側ヨリ測リタルモノナリ而シテ前後ノ長サハ 13mm 厚サノ最大ハ9mm アリ犬齒ハ尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅シタルノミニシテ其他ノ部分ハ完全ナリ犬齒ニ最モ近キ前臼齒卽チ第四前臼齒(p4)ハ永久齒ニシテ其齒冠部ハ稍著シク磨滅シ磨滅面ハ長サ7mm, 幅3mm, アリ而シテp4ノ高サハ3mm, 前後ノ長サ8mm,厚サノ最大ハ4mm アリ第三前臼齒(p3)ハ右側ノ齒ニアリテ高サノ最大ハ9mm, 前後ノ長サ10mm幅ノ最大ハ7mm アリ琺瑯質ハ僅ニ磨滅シタルモ未タ齒質ヲ露出スルニ至ラス

第二前臼齒(p2)ハ高サノ最高10mm, 前後ヲ測リタル長サハ12mm,內外ノ幅ハ10mm アリ琺瑯質ハ僅ニ磨滅シタルモ齒質部ハ露出スルニ至ラス　第一前臼齒(p1)ハ高サ10mm,長サ11mm,幅11mm アリ Metaconus, Paraconus 並ニ Protoconus ハ何レモ其尖端琺瑯質ハ磨滅シ齒質極メテ僅ニ露出セリ　後臼齒ニアリテハ第一後臼齒(m_1)ハ高サノ最大ハ 10.5mm, 長サ15mm,幅ハ最大ハ 13mm アリ Metaconus 及 Hypoconus ハ共ニ磨滅シテ齒質露出シ一ツノ凹所ヲ生セリ同樣ニ Paraconus ト Protoconus トハ其尖端磨滅シテ一ツノ窪ミヲ生セリ結局m_1ハ前部及後部ニ各一ツノ窪ミヲ生セリ第二後臼齒(m_2)ハ高サノ最大11mm 前後ノ長サ 19mm, 內外ノ幅ノ最大ハ16mm アリ Metaconus ト Hypoconus ハ尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅セリ卽チ其磨滅面ノ直徑ハ Metaconus ハ3mm, Hypoconus ハ5mm ナリ何レモ琺瑯質ノミ磨滅シ齒質ハ露出スルニ至ラス Paraconus ハ稍著シク磨滅シ齒質僅ニ露出ス磨滅面ノ直徑ハ6mm アリ Protoconus ハ磨滅面ノ直徑7mm アリ齒質露出セリ　第三後臼齒(m_3)ハ未タ生育ヲ完了セス殊ニ齒ノ後部ハ尙顎骨內ニアリm_3ハ磨滅シタル部分存在セス內外ニ測リタル幅ノ最大ハ18mm, 前後ノ長サハ27mm, 高サノ最大ハ11mm アリ

上顎ニ於テハ永久齒ハ上記ノ如ク20箇ニシテ外ニ右側ニ於テ中齒

ノ乳歯ハ未タ脱落セスシテ殘存セリ

下顎ノ歯ノ狀態

1) 鉗歯ノ狀態　左側ノ鉗歯ハ根元ヨリ折レタリ右側ノ鉗歯ハ歯冠部著シク磨滅シ磨滅面ハ略等邊三角形ヲ爲ス其頂點ハ内方ニアリ三角形ノ中央ハ黑色ニシテ凹メリ此黑色部ハ長サ 2.5mm, 幅 1mm アリ鉗歯ノ高サノ最大ハ 10mm, 内外ノ厚サハ 8mm, 左右ノ幅ハ 6mm アリ鉗歯ノ基部外側卽チ下部ニハ極メテ小形歯狀ノモノアリ顎骨内ヨリ其頭部ヲ表ハス

2) 中歯ノ狀態　中歯ハ左右共ニ著シク磨滅セリ其高サノ最大ハ右側ノ歯ニ在リテハ 13mm アリ内外ノ厚サ 8mm, 左右ノ幅ハ 7mm アリ磨滅面ハ不規則形ヲ爲ス磨滅面ノ中央ハ略平坦ニシテ鉗歯ニ於テ見タルカ如キ凹處ナシ右側ノ中歯ハ其下邊ニ沿ヒテ更ニ 1 本ノ歯ヲ生セリ長サ及高サハ略中歯ニ等シキモ厚サ頗ル薄クシテ 3mm ナリ

3) 隅歯ノ狀態　右側ノ隅歯ハ根元ニ近キ箇所ヨリ折レタリ左側ノ隅歯ハ殆ト完全ニシテ磨滅シタル部分ハ其尖端部ノ極ク小部分ナリ其長サノ最大ハ 17mm, 上下ノ厚サ 5.5mm, 左右ノ幅ハ 6mm アリ

4) 犬歯(c)ノ狀態　左側ノ犬歯ハ尖端稍著シク磨滅シ高サノ最大ハ 14mm ナリ右側ノ犬歯ハ殆ト磨滅シタル部分ナク完全ニ近シ基部ヨリ垂直ノ高サ 22.5mm アリ

5) 第四前臼歯(p4)ハ左右共ニ發生ナシ

6) 第三前臼歯(p3)ハ左側ノ歯ノ Protoconus ノ高サヲ測ルニ 9mm アリ p^3 ヲ前後ニ測リタル長サハ 11mm, 内外ニ測リタル幅ハ 5mm アリ全部完全ニシテ磨滅シタル部分無シ

7) 第二前臼歯(p2)ハ左右ノ歯共ニ Protoconus ノ尖端ノミ僅ニ磨滅セルモ他部ハ盡ク完全ナリ Protoconus ノ高サハ 6mm, 前後ノ長サハ 12mm, 内外ノ幅ハ 7mm アリ

8) 第一前臼歯(p1)ハ Paraconus, Protoconus 及 Metaconus 共ニ其尖端ハ磨滅セリ而シテ此三ツノ磨滅面ハ略同一平面上ニアリ其高サ 11mm, 前後ノ

長サ13mm,内外ノ厚サノ最大ハ10mmアリ

9) 第一後臼齒(m_1)ハ左右共齒冠部ハ稍著シク磨滅セリ左側ノ齒ニアリテハParaconusハProtoconusト共ニ尖端著シク磨滅シテ齒質部露出シ中央ハ窪メリ此部ノ高サノ最大ハ11mmナリMetaconus及Hypoconusハ齒冠部不規則ニ磨滅シ磨滅面ハ平面ヲ爲サス此部ノ高サノ最大ハ 10mmアリm_1ノ前後ニ測リタル長サノ最大ハ16mm,幅ノ最大ハ9mmアリ

10) 第二後臼齒(m_2)ハ琺瑯質稍著シク磨滅シタレトモ齒質部ハ右側ノ齒ニ於テ極メテ僅ニ露出シタルノミニテ他ハ尙琺瑯質ニ露ハル左側ノ齒ニ就テ測定スルニ高サノ最大ハ11mm,前後ノ長サノ最大ハ19mm,幅ノ最大ハ14mmアリ

11) 第三後臼齒(m_3)ハ左右共ニ未タ發育ヲ完了スルニ至ラス,卽チ後端ニ近キ部分ハ何レモ顎骨ノ表面ニ極メテ僅ニ露出シタルニ過キサルナリ然ルニ此齒ノParaconus及Protoconusハ左右兩側ノ齒共ニ琺瑯質磨滅セリ其磨滅面ノ徑ノ最大ハ10mmアリ磨滅面ニハ齒質ハ未タ露出スルニ至ラスm_3ノ高サノ最大ハ 13mm, 前後ノ長サノ最大ハ29mm,内外ノ幅ノ最大ハ16mmアリ

下顎ノ齒ハ以上記スルカ如ク全部ニテ20箇ニシテ盡ク永久齒ナリ

16) 滿2歳7箇月ノ「パークシヤー」種牡ノ齒ノ狀態

「パークシヤー」種牡4909號(耳標99)母2978號父3484號　昭和元年(1926年)十二月七日生レ昭和四年(1929年)七月十九日屠殺ス

上顎ノ齒ノ狀態

1) 門齒ノ鉗齒ハ尖端ノミ僅ニ磨滅セリ上顎ノ鉗齒カ磨滅シ始ムルハ生後2歳7箇月ノ頃ナルヘシ　此齒ノ長サノ最大ハ19.5mmアリ基部ニ於テ幅ハ9mm,厚サハ6mmアリ(右側ノ齒)　中齒及隅齒ハ紛失シ檢スルヲ得ス

2) 犬齒(c)ハ左側ノモノハ尖端著シク磨滅シ長サノ最大40mmアリ右側ノ犬齒ハ長サノ最大ハ43mm,其基部ニ於テ前後ニ測リタル幅ハ23mmアリ

3) 前臼歯ノ内第四前臼歯ハ左右共ニ紛失シ檢スルヲ得ス第三前臼歯(p3)ハ完全ニシテ磨滅シタル部分殆ト無シ右側ノp3ヲ測ルニ最高9.5mm,前後ノ長サ11mm,厚サ8mmアリ　第二前臼歯(p2)ハProtoconusカ著シク磨滅シ高サ9mm前後ノ長サ12mm,厚サノ最大ハ11.5mmアリ　第一前臼歯ハProtoconusノミ磨滅セルモ他部ハ殆ト完全ナリp1ノ最高ハ9mm,前後ノ幅ハ12mm,厚サ12mmアリ

4) 後臼歯ノ狀態　第一後臼歯(m_1)ハParaconus, Metaconus, Protoconus, Hypoconus共ニ著シク磨滅シ歯質露出セリ　Cingulumハ完全ナリ最高8.5mm, 前後ノ長サ16mm,厚サ13.5mmアリ第二後臼歯ハPa, Me, Pr及Hy共ニ少シク磨滅セルノミニシテ他ハ完全ナリ高サ10.5mm,長サ19mm,厚サ16.5mmアリ第三後臼歯ハPa及Prノ琺瑯質ノミ極メテ僅ニ磨滅シタルノミニシテ他ハ殆ト完全ナリ高サ10mm,前後ノ長サ29.5mm,厚サノ最大ハ17mmアリ　上顎ノ歯數ハ合計22箇ナリ　就中第三後臼歯ノミハ其後部ハ未タ發育ヲ完了セス

下顎ノ歯ノ狀態

1) 鉗歯ノ狀態　鉗歯ハ尖端部ハ稍著シク磨滅セリ磨滅面ハ略五角形ヲ爲ス鉗歯ノ高サノ最大ハ24mm,アリ内外ノ厚サハ9mm,左右ノ幅ハ6mmアリ鉗歯ノ基部ニハ「パークシャー」種4335號ニ於テ見タルカ如キ異物ヲ何等認メス

2) 中歯ノ狀態　中歯ハ尖端ニ近キ部ノミ少シク磨滅セリ其高サノ最高ハ26mmアリ内外ノ厚サ8mm,左右ノ幅ハ7mmアリ磨滅面ハ不規則形ヲ爲ス中歯ノ基部ニハ4335號ニ於テ見タルカ如キ異物ヲ認メス

3) 隅歯ノ狀態　隅歯ハ左右共ニ紛失シ檢スルコトヲ得ス

4) 犬歯　甚タ長大强固ニシテ尖端後方ニ向ヒ彎曲ス尖端並ニ其附近極メテ僅ニ磨滅シタルノミニシテ他ハ原形ヲ保テリ　側面labiale Fläche ノ外緣ニ沿ヒテ計リタル長サハ89mmアリ

5) 第四前臼歯　左側ニハ未タ發生セス　右側ニハ發生シタレトモ紛失シ檢スルヲ得ス

6) 第三前臼歯　左側ノ歯ノ尖端カ極メテ僅ニ磨滅シタルノミニテ右側ノ歯ハ殆ト完全ナリ　右側ノPrノ高サハ9mmアリ前後ノ長サハ11mm,内外ノ幅ハ5.5mmアリ

7) 第二前臼歯ハPrカ稍著シク磨滅シMeハ極メテ僅ニ磨滅セルノミナリPrノ高サハ10mmアリ前後ノ長サハ12mm内外ノ厚サハ7mmアリ

8) 第一前臼歯ハPr及Me共ニ稍著シク磨滅セリp1ハ高サ11mm,前後ノ長サ13mm,内外ノ厚サ9.5mmアリ

9) 第一後臼歯(m_1)ハ歯冠部稍著シク磨滅セリ磨滅面ハ略平面ヲ爲ス其高サ7mm,前後ノ長サ14.5mm,内外ノ厚サ11.5mmアリ

10) 第二後臼歯(m_2)ハ歯冠ノ琺瑯質少シク磨滅シ歯質少シク露出セリm_2ノ最高ハ9mm,前後ノ長サハ18.5mm,内外ノ厚サハ13.5mmアリ

11) 第三後臼歯(m_3)　Paraconus及Protoconusノ尖端琺瑯質カ極メテ僅ニ磨滅セルノミナリ歯質ノ露出セルモノナシm_3ノ後部ハ未タ十分ニ生育ヲ完フセス　下顎ノ歯數ハ全部ニテ21箇ナリ卽チ上下顎ノ歯數ノ合計ハ48箇ナリ

17)滿2歳9箇月ノ「バークシヤー」種牝ノ歯ノ狀態

「バークシヤー」種牝4825號(耳標193號)母2882號父4056號　昭和元年(1926年)十月六日生レ昭和四年(1929年)七月十九月屠殺

上顎ノ歯ノ狀態　門歯ノ中歯ハ紛失シ檢スルヲ得ス中歯(iI)ハ完全ニシテ少シモ磨滅シタル部分ナシ高サ7mm前後ノ長サ14.5mm,内外ノ厚サ6mmアリ隅歯ハ紛失シ檢スルヲ得ス犬歯(c)ハ左右共ニ磨滅ノ程度略同樣ニシテ尖端部少シク磨滅シタルノミナリ　高サ(右側)ノ最大ハ28mm,其基部ニ於テ前後ニ測リタル幅ハ17mmアリ前臼歯ノ内第四前臼歯(p4)ハ紛失シ檢スルコトヲ得ス第三前臼歯(p3)ハProtoconusノ尖端少シク磨滅シタルノミニシテ他ハ殆ト完全ナリ右側ノ歯ヲ計ルニ高サ8mm,前後ノ幅ハ12.5cm,内外ノ厚サハ8mmアリ第二前臼歯(p2)ハ歯冠部著シク磨滅セリ且中央ハ周壁ニ比シ窪メリ高サノ最大ハ9mm,前後

ノ幅ハ12mm,内外ノ厚サハ11mmアリ第一前臼歯(p1)ハParaconus, Metaconus及Protoconus共ニ其尖端少シク磨滅セルノミニテ他部ハ完全ナリ高サノ最大ハ10mm,前後ノ長サハ13mm,内外ノ厚サハ13mmアリ第一後臼歯(m_1)ハ殆ト歯根ニ達スルマテ著シク磨滅セリ磨滅面ハ前方及後方共夫々著シク凹メリ高サノ最大ハ7.5mm,前後ノ幅ハ15mm,内外ノ厚サハ15mmアリ　第二後臼歯(m_2)ハParaconus及Protoconusハ著シク磨滅セルモ他部ハ僅ニ磨滅セルニ過キス高サノ最大ハ10.5mm,前後ノ幅ハ22mm内外ノ厚サハ17.5mmアリ　第三後臼歯(m_3)ハParaconusノ尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅セリ磨滅面ノ直徑ハ4.5mmアリ他部ハ磨滅シタル部分ナシm_3ノ後半部ハ未タ生育ヲ完了セ　シテ大部分ハ尚顎骨ニ隱ル高サノ最大ハ11mm前後ノ幅ハ成育未完了ノ爲測リ難シ内外ノ厚サハ20mmアリ上顎ノ歯數ハ22箇ナリ　上顎骨ノ下緣長(Untere Schädellänge)ハ後頭孔ノ緣少シク破損セル爲正確ニ測定シ難ケレトモ約24.2cmアリ上緣長(Obere Schädellänge)ハ24.5cm上顎骨ノ最大幅ハ26.2cmアリ

下顎ノ歯ノ狀態　鉗歯ハ右側ノモノノミ存在シ左側ノモノハ幼時脫落シタルカ若クハ最初ヨリ存在セサリシモノナルカ不明ナリ右側ノ鉗歯ハ尖端稍著シク磨滅セリ磨滅面ハ略五角形ヲ爲ス鉗歯ノ高サノ最大ハ26mmアリ内外ノ厚サハ9.5mm,左右ノ幅ハ8mmアリ　中歯(iI1)ハ尖端及其附近稍著シク磨滅セリ其高サノ最高ハ30.5mmアリ内外ノ厚サ10.5mm左右ノ幅ハ7mmアリ磨滅面ハ不規則形ヲ爲ス隅歯ハ左右共ニ紛失シタリ　犬歯ハ尖端後方ニ向ヒ彎曲ス左犬歯ノ尖端ハ稍著シク磨滅シタレトモ右犬歯ハ尖端カ極メテ僅ニ磨滅シタルノミナリlabiale Fläche ノ外緣ニ沿ヒテ計リタル長サハ24mmアリ第四前臼歯(p4)ハ殆ト完全ニシテ磨滅シタル部ナシ高サノ最高ハ7.5mm,前後ノ幅ハ8mm,内外ノ厚サハ4.5mmアリ　第三前臼歯(p3)ハ尖端ノミ極メテ僅カニ磨滅シタルノミニテ他ハ完全ナリ高サノ最高ハ8.5mm,前後ノ幅ハ12mm,内外ノ厚サハ8mmアリ第二前臼歯(p2)ハProtoconusカ稍著シク磨滅シ歯質少シク露出セルモ其他ノ部分ハ殆ト完全ナリ最高11.5mm,前後

ノ幅ハ12.5mm,内外ノ厚サハ8mmアリ第一前臼歯(p1)ハProtoconus, Paraconus及Metaconus共ニ其尖端催ニ磨滅シタリ歯ノ最高ハ11mm,前後ノ幅ハ14mm,内外ノ厚サハ11mmアリ　第一後臼歯(m_1)ハ歯冠部殆ト全部磨滅シ且前部及後部共夫々中央ハ著シク凹ミ左側ノ歯ニアリテハHypoconusノ中央ハ腐朽シ直徑約3mm,深サ3mmノ孔隙ヲ生セリ(m_1)ハ前後ノ長サ15.5mm,高サ6.5mm,内外ノ厚サ13mmアリ　第二後臼歯(m_2)ハ前部及後部共ニ其歯冠部稍著シク磨滅シタレトモ其程度ハm_1ノ如ク著シカラス歯ノ最高ハ11mm前後ノ幅ハ22mm,内外ノ厚サハ17mmアリ第三後臼歯(m_3)ハProtoconus及Paraconusノ尖端琺瑯質稍著シク磨滅シタレトモ其他ノ部分ハ殆ト完全ナリm_2ノ後部ハ骨顎骨中ニ大部分ヲ包藏セリm_1ノ最高ハ10mm,前後ノ長サハ32mm,内外ノ厚サノ最大ハ18mmアリ

下顎ノ歯數ノ總計ハ以上記スル處ノ21箇ニシテ上下顎ノ歯數ノ合計ハ43箇ナリ

18)滿2歳10箇月ノ「パークシャー」種牝ノ歯ノ狀態

「パークシャー」種牝4030號(耳標50號)母2838號父3484號　大正十四年(1925年)二月十三日生レ昭和二年(1927年)十二月末屠殺ス

上顎ノ歯ノ狀態：門歯ハ紛失セリ犬歯(c)ハ下面(labiale Fläche)ノ琺瑯質及尖端部少シク磨滅シタルノミニテ他ノ部ハ完全ナリ　歯ノ最高ハ21.5mm,基部ニ於テ前後ニ測リタル幅ハ14.5mmアリ第四前臼歯(p4)ハ尖端部磨滅セリ、歯ノ最高ハ6mm,前後ニ測リタル幅ハ8mm,内外ノ厚サハ4mmアリ　第三前臼歯(p3)ハProtoconusノ尖端並ニ其後部少シク磨滅シタルノミナリ最高ハ7.5mm,前後ノ長サハ11mm,内外ノ幅ハ6.5mmアリ第二前臼歯(p2)ハ歯冠部著シク磨滅セリ其最高ハ8mm,前後ノ長サハ11.5mm,内外ノ厚サハ10mmアリ第一前臼歯(m_1)ハ歯冠部著シク磨滅セリ此歯ノ最高ハ10mm,前後ノ幅ハ11.5mm,内外ノ厚サハ12.5mmアリ第一後臼歯(m_1)ハ殆ト歯根ニ達スルマテ著シク磨滅セリ磨滅面ハ前部後部共ニ中央凹メリm_1ノ最高ハ8.5mmアリ前後ノ幅ハ14.5mm,内外ノ厚サハ15.5mmアリ第二後臼歯(m_2)ハParaconus及Protoconusハ歯冠部著シク磨滅シタ

レトモHypoconus及Metaconusハ比較的僅ニ磨滅シタルノミナリ此齒ノ最高ハ12mm,前後ノ幅ハ18.5mm,內外ノ厚サハ18mmアリ第三後臼齒(m_3)ハParaconus及Protoconusノ尖端ノミ少シク磨滅シ齒質僅ニ露出セリ、Metaconus及Hypoconusハ琺瑯質僅ニ磨滅シタレトモ齒質ハ未タ露出セス(m_3)ノ後部ハ未ダ生育ヲ全フセス(m_2)ノ最高ハ11.5mm,前後ノ幅ハ28.5mm,內外ノ厚サハ18mmアリ　上顎ノ齒ハ以上述フル處ノ22箇ニシテ前臼齒及後臼齒ノ內ニハ齒冠部著シク磨滅シタルモノアレトモ尙飼料ノ採取及咀嚼ノ爲ニ十分有効ナルノ狀態ニアリ

下顎ノ齒ノ狀態　鉗齒ハ齒冠部稍著シク磨滅シタレトモ尙頗ル强固ナリ磨滅面ハ略三角形ヲ呈ス.臼齒ノ最高ハ20mm,內外ノ厚サハ9mm左右ノ幅ハ6.5mmアリ中齒ハ磨滅ノ度著シカラス最高ハ29.5mm,內外ノ厚サハ8.5mm左右ノ幅ハ7mmアリ磨滅面ハ不規則形ヲ爲ス　隅齒ハ左右共ニ脫落紛失シタリ　犬齒ハ尖端並ニ其附近稍著シク磨滅シタリ犬齒ノ最高ハ21mmアリ　第四前臼齒(p4)ハ其齒冠部ヲ極メテ僅ニ顎骨ノ表面ニ出現シタルノミニシテ磨滅シタル部分ナシ此齒ノ最高ハ1mm前後ノ幅ハ8.5mm,內外ノ厚サハ3mmアリ　第三前臼齒(p3)ハ完全ニシテ磨滅シタル部分ナシ最高9.5mm,前後ノ幅ハ10.5mm,內外ノ厚サハ6mmアリ　第二前臼齒(p2)ハProtoconusカ僅ニ磨滅シタルノミニテ他ノ部ハ殆ト完全ナリ此齒ノ最高ハ12.5mm,前後ノ幅ハ11mm,內外ノ厚サハ7.5mmアリ第一前臼齒(p1)ハ其尖端少シク磨滅シ齒質露出セリ齒ノ最高ハ12.5mm,前後ノ幅ハ12mm,內外ノ厚サハ10mmアリ第一後臼齒(m_1)ハ齒冠部著シク磨滅シ前部及後部共ニ中央部ハ凹メリ然レトモ齒質部ハ未タ堅固ニシテ腐朽スルニ至ラス十分ニ咀嚼ノ用ヲ爲スm_1ノ最高ハ10mm,前後ノ幅ハ15mm,內外ノ厚サハ11.5mmアリ第二後臼齒(m_2)ハ前部後部共ニ其齒冠部稍著シク磨滅シタレトモ其程度ハ(m_1)ノ如ク著シカラス齒ノ最高ハ9.5mm,前後ノ幅ハ17.5mm,內外ノ厚サハ14mmアリ第三後臼齒(m_3)ハ前部,中部,後部共ニ尖端琺瑯質磨滅セリ但其程度僅少ニシテ齒質部ハ極メテ僅ニ露出シタルニ過キス(m_3)ノ最高ハ11mm,前後ノ幅

ハ30.5mm,内外ノ厚サハ16mmアリ　下顎ノ歯數ノ總計ハ上記スル所ノ22箇ニシテ上下顎ノ歯數ノ合計ハ44箇ナリ

19)滿3歳3箇月ノ「バークシヤー」種牝ノ歯ノ狀態

「バークシヤー」種牝4613號(耳標121號)母2453號父3484號　昭和元年(1926年)四月七日生レ昭和四年(1929年)七月十二日屠殺ス

上顎ノ歯ノ狀態　門歯ハ尖端部極メテ僅ニ磨滅シタルノミニテ他部ハ完全ナリ歯ノ最高23.5mm前後ノ幅ハ11.5mm内外ノ厚サハ6.5mmアリ中歯ハ紛失シ檢スルヲ得ス隅歯ハ左右共ニ發生シタル形跡全クナシ犬歯ハ紛失セリ第四全臼歯(p4)ハ殆ト完全ニシテ磨滅シタル部分殆ト無シ最高ハ7mm,前後ノ幅ハ9mm,内外ノ厚サハ4.5mmアリ第三前臼歯(p3)ハ左側ノ歯ハ尚完全ニシテ右側ノ歯ハProtoconusノ後方琺瑯質磨滅シ歯質少シク露出セル以外ニハ凡テ磨滅セル部分ヲ認メス歯ノ最高ハ9mm,前後ノ幅ハ12.5mm,内外ノ厚サハ8mmアリ第二前臼歯(p2)ハ前部及後部共ニ其尖端著シク磨滅シ歯質露出セリ歯ノ最高ハ11.5mm,前後ノ幅ハ13.5mm,内外ノ厚サハ10.5mmアリ第一前臼歯(p1)ハ前部及後部共ニ歯冠部著シク磨滅シ歯質露出シタレトモ尚十分ニ咀嚼ノ用ヲ爲スヲ知ル歯ノ最高ハ9.5mm,前後ノ幅ハ12mm,内外ノ厚サハ13mmアリ第一後臼歯(m_1)ハ歯冠部著シク磨滅シ前部及後部共ニ中央ハ著シク窪メリ但飼料ノ咀嚼上ニハ支障少ナカリシコトヲ知ル歯ノ最高ハ8.5mm,前後ノ幅ハ15.5mm,内外ノ厚サハ15.5mmアリm_2ハ前部後部共ニ其尖端稍著シク磨滅シタリ歯ノ最高ハ11mm,前後ノ幅ハ21mm,内外ノ厚サハ18mmアリ第三後臼歯(m_3)ハParaconus及Protoconusノ尖端極メテ僅ニ磨滅シタルモ歯質部ハ未タ露出スルニ至ラス其他ノ部分ハ磨滅シタル部分殆ト無シ歯ノ後部ハ未タ生育ヲ完了セス上顎ノ歯ハ以上述フル處ノ20箇ニシテ正常ノ場合ニ比較シ2箇(隅歯)ハ先天的ニ不足セリ今此牝豚4613號ノ上顎骨ノ下緣長ヲ測定スルニ256mmアリ(後頭孔ノ下緣少シク破損セル儘ニテ測ル)尚上緣長ハ246.5mmアリ而シテ上顎骨ノ最大幅ハ173.5mmアリ

下顎ノ齒ノ狀態　鉗齒ハ齒冠部著シク磨滅シ磨滅面ハ略五角形ヲ爲ス此齒ノ最高ハ24mm,內外ノ厚サ11mm,左右ノ幅ハ6.5mmアリ中齒ハ磨滅ノ度著シカラス最高ハ39mm,內外ノ厚サハ9mm,左右ノ幅ハ7mmアリ磨滅面ハ不規則形ヲ爲ス隅齒ハ左右共ニ脫落紛失セリ犬齒ハ尖端並ニ其附近著シク磨滅セリ其最高ハ32mmアリ　第四前臼齒ハ左右共ニ脫落紛失セリソノ發生ノ位置ハ左側ハ犬齒ニ接シテ其後方ニ生シ右方ノ齒ハ犬齒ト第四前臼齒トノ中間ニ在リ第三前臼齒(p3)ハ其尖端極メテ僅ニ磨滅シタルノミニシテ他ハ完全ナリ第二前臼齒ハ其尖端僅ニ磨滅セリ第一前臼齒ハ尖端稍著シク磨滅セリソノ磨滅面ノ長サ13mm幅ノ最大ハ5mmアリ第一後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ前部後部共ニ中央凹メリ第二後臼齒ハ齒冠ノ上面稍著シク磨滅シタリ第三後臼齒ハ前部ノ尖端僅ニ磨滅シタルノミニテ他ハ完全ナリ此齒ノ後部ハ殆ト生育ヲ全フシタリ故ニm_3ノ後部カ生育ヲ全フスルハ生後3歲3箇月ノ頃ナリ　下顎ノ齒ハ以上記スル處ノ22枚ニシテ上顎ノ齒數ヲ合スル時ハ合計42箇ナリ

20)滿3歲10箇月ノ「パークシヤー」種牡ノ齒ノ狀態

「パークシヤー」種牡3113號(耳標88號)母1310號父1850號　大正十二年(1923年)三月十七日生レ昭和二年(1927年)一月十一日屠殺ス(蕃殖成績不良ノ爲)

上顎ノ齒ノ狀態　鉗齒(iI)ハ齒冠部稍著シク磨滅シタリ此齒ノ最高ハ15mmアリ中齒(iII)ハ簞平ニシテ齒冠部稍著シク磨滅セリ此齒ノ最高ハ7mm,前後ノ幅ハ12mm內外ノ厚サハ4.5mmアリ臼齒ハ2箇共ニ脫落シ存在セス　犬齒(c)ハ强固ニシテ尖端及前面ハ著シク磨滅セリソノ高サノ最高ハ45mm,前後ノ幅ハ15mmアリ上下ノ厚サハ17.5mmアリ　第四前臼齒(p4)ハ齒冠部少シク磨滅シタリ最高4.5mmアリ　第三前臼齒ハ尖端附近少シク磨滅シタリ其最高ハ10mmアリ　第二前臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ前部,後部共ニ中央ハ著シク窪メリ　第二前臼齒ノ最高ハ10mmアリ　第一前臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ中央ハ著シク窪メリ此齒ノ最高ハ8mmアリ　第一後臼齒及第二後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ

前部及後部共ニ著シク窪ミ齒質露出セリ齒ノ最高ハ前者ハ9.5mm 後者ハ7.5mmアリ　第三後臼齒ハParaa及Protoconusハ共ニ稍著シク磨滅シタレトモ後部ハ極メテ僅ニ磨滅セルノミナリ此齒ノ最高ハ10mmアリ上顎ニ於ケル齒數ハ以上述フル處ノ22箇ナリ

下顎ノ齒ノ狀態　下顎ノ齒ニ在リテハ左側ノ齒ハ11箇ヲ有スレトモ右側ノ齒ハ10枚ニシテ犬齒ノ後方ニ位スル第四前臼齒(p4)ハ存在セス顎骨ヲ檢スルニ存在シタリシ形跡ナシ門齒ノ鉗齒中齒及臼齒ハ何レモ齒冠部尖端稍著シク磨滅シタルモ他部ハ完全ナリ齒ノ長サハ夫々19mm, 26.5mm, 16.5mmアリ(左側ヲ測ル)犬齒ハ中間面Mediale Fläche,[1]カ著シク磨滅セルヲ認ム此齒ノ最大長ハ53mmアリ第四前臼齒(p4)ハ左側ニノミ存在ス犬齒ノ直後ニ接シテ位置シ完全ニシテ磨滅シタル部分全々無シ、高サ13mmアリ第三前臼齒ハ尖端極メテ僅ニ磨滅シタルノミナリ齒ノ最高8.5mmアリ　第二及第一前臼齒ハ尖端稍著シク磨滅シ齒ノ最高ハ夫々9mm及9.5mmアリ第一後臼齒ハ齒冠部殆ト全部磨滅シ齒質部著シク窪メリ齒ノ最高ハ7mmアリ第二後臼齒ハ齒冠部稍著シク磨滅シ齒ノ最高ハ7mmアリ第三後臼齒(m_3)ハProtoconid及Paraconidノ尖端少シク磨滅シ齒質極メテ僅ニ露出シタリm_3ノ後部ハ未タ生育ヲ完了セス

21) 滿4歳2箇月ノ「パークシヤー」種牝ノ齒ノ狀態

「パークシヤー」種牝2977號、母「ドラ」號父「ロバー」號　大正十一年(1922年)九月十一日生レ昭和元年(1926年)十一月二日屠殺ス

上顎ノ齒ノ狀態　門齒ハ鉗齒、中齒、隅齒共ニ齒冠部稍著シク磨滅シタリ齒ノ高サノ最大ハ夫々17.5mm, 11mm及8.5mmアリ　犬齒ハ尖端ノミ僅ニ磨滅セリ高サノ最大ハ17mmアリ第四及第三前臼齒ハ尖端部カ極メテ僅ニ磨滅シタルノミニシテ他部ハ完全ナリ第二前臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ齒ノ最高ハ9mmアリ第一前臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ齒ノ最高ハ11mmアリ第一及第二後臼齒ハ齒冠部殆ト全部滅磨シ齒

1) W. Elleenberger, Handbuch der VergleichendenAnatomie der Haustiere, 1926. S.200

質部著シク窪メリ齒ノ高サノ最大ハ何レモ8mm アリ第三後臼齒ハ咀嚼面僅ニ磨滅シタルノミニシテ他部ハ完全ナリ齒ノ最高ハ9mmアリ

上顎ノ齒數ハ以上記スル處ノ22箇ナリ

下顎ノ齒ノ狀態　鉗齒中齒及臼齒ハ何レモ齒冠部稍著シク磨滅シ高サハ夫々22, 23及22mm アリ犬齒ハ尖端及其附近稍著シク磨滅セリ高サノ最大ハ28mmアリ第四前臼齒ハ完全ニシテ磨滅シタル部分ナシ最高9.5mm アリ第三前臼齒ハ完全ニシテ磨滅シタル部分ナシ最高9mm アリ第二及第一前臼齒ハ尖端少シク磨滅セリ最高ハ夫々12.5mm及11.5mmアリ第一及第二後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ各ノ齒ハ前部及後部共ニ窪メリ齒ノ最高ハ何レモ9mm アリ第三後臼齒ハ齒冠部稍著シク滅磨シタレトモ齒質部ハ極メテ僅ニ露出シタルニ過キス齒ノ後部ハ既ニ完全ニ生育ヲ了セリ　下顎ノ齒ハ合計22箇ニシテ發生ノ位置モ盡ク整齊ナリ　上下顎ノ齒數ノ合計ハ44箇ナリ　此2977號ノ頭蓋骨ノ下緣長ハ267mm,上緣長ハ264mm,最大幅ハ172mmアリ

22)滿4歲4箇月ノ「バークシヤー」種牝ノ齒ノ狀態

「バークシヤー」種牝4089號母2941父2067號　大正十四年(1925年)三月二十五日生レ昭和四年(1929年)七月十三日拂下、後間モ無ク屠殺ス

上顎ノ齒ノ狀態　門齒ハ紛失シ檢スルヲ得ス犬齒ハ尖端ノミ少シク滅磨セリ其最高ハ23.5mmアリ第四及第三前臼齒ハ尖端僅ニ磨滅シタルノミニシテ殆ト完全ナリ齒ノ最高ハ夫々6mm及9.5mmアリ第二第一前臼齒及第一、第二後臼齒ハ何レモ齒冠部著シク磨滅シ齒質部著シク窪メリ第三後臼齒ハ磨滅ノ程度未タ前者ノ如クニハ著シカラス上顎ニ於ケル齒數ハ以上述フル處ノ22箇ナリ

下顎ノ齒ノ狀態　鉗齒及中齒ハ齒冠部著シク磨滅セリ隅齒ハ完全ニシテ未タ磨滅シタル部分ナシ齒ノ高サハ夫々23.5mm, 31.5mm及16.5mm アリ犬齒ハ左側ノ齒ハ中部ヨリ折レタリ右側ノ齒ハ尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅セリ齒ノ長サハ26mmアリ前臼齒ニアリテハ第四,第三及第二前臼齒ハ尖端僅ニ磨滅シタルノミニシテ殆ト完全ナリ齒ノ高サ

ハ夫々8, 8及12mmアリ第一前臼齒ハ尖端僅ニ磨滅シ高サ11mmアリ第一,第二及第三後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅セリ殊ニ第一及第二後臼齒ハ程度著シク齒質部著シク窪メリ後臼齒ノ高サハ夫々8.5mm, 11mm及7mmアリ　下顎ノ齒數ハ以上述フル處ノ22箇ニシテ上下顎ノ齒數ノ其合計ハ44箇ナリ　尙上顎骨ヲ測定スルニ頭蓋骨下緣長ハ27cm,同上緣長ハ25.9cm 頭蓋骨ノ最大幅ハ17.7cmアリ

23)滿4歲4箇月「パークシヤー」種牡ノ齒ノ狀態

「パークシヤー」種牡4419號(耳標27號)母ハンモンドメーイアルトン號父ストーンヘンザサープライス號　大正十四年(1925年)三月三十日生レ昭和四年(1929年)七月十四日屠殺ス　頭蓋骨ノ下緣長ヲ計測スルニ27.6cm上緣長ハ29.1cm最大幅ハ21.4cmアリ

上顎ノ齒ノ狀態　門齒ハ何レモ齒冠部著シク磨滅シタリ犬齒モ著シク磨滅シ長サノ最大ハ41mmアリ第四前臼齒ハ紛失シ檢スルヲ得ス第三,第二前臼齒ハ磨滅ノ程度著シカラス高サハ夫々12.5mm, 13.5mmアリ第一前臼齒及第一及第二後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シタリ殊ニ第一後臼齒ハ齒質部著シク窪メリ第三後臼齒ハPara-及 Protoconus ノ尖端琺瑯質カ僅ニ磨滅シタルノミニシテ齒質ハ未タ露出セスMeta-及Hypoconusハ殆ト完全ナリ其後方ノ部分ノ齒ハ未タ生育ヲ完了セス　上顎ニ於ケル齒數ハ以上述フル處ノ22箇ナリ

下顎ノ齒ノ狀態　門齒ハ齒冠部著シク磨滅セリ犬齒ハ尖端及後面稍著シク磨滅セリ犬齒ノ長サハ51mmアリ第四前臼齒ハ完全ニシテ磨滅シタル部分ナシ第三,第二及第一前臼齒ハ尖端僅ニ磨滅シタリ第一及第二後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ殊ニ第一後臼齒ハ齒質部著シク窪メリ　第三後臼齒ハ前部ノ尖端僅ニ磨滅シタルノミニシテ後部ハ未タ生育ヲ遂クルニ至ラス　下顎ノ齒數ハ以上述フル處ノ22箇ニシテ上下顎ノ齒數ノ合計ハ44箇ナリ

24)滿5歲3箇月ノ「パークシヤー」種牝ノ齒ノ狀態

「パークシヤー」種牝2405號(耳標26)母1930父1711號　大正十年(1921年)十月十七日生レ昭和二年(1927年)一月十八日屠殺ス(腰痿)頭蓋骨ノ下緣長ハ24.9cm

同上緣長ハ24.7cm, 同最大幅ハ16.5cmアリ

上顎ノ齒ノ狀態：門齒ニ在リテハ鉗齒,中齒及隅齒共ニ齒冠部著シク磨滅シタリ門齒ノ高サハ夫々12mm, 7mm及5mmアリ犬齒ハ左側ノモノハ齒冠部殆ト全部破損磨滅セリ右側ハ尖端稍著シク磨滅シタリ右側犬齒ノ高サハ23mmアリ第四前臼齒ハ左側ノ齒ハ齒冠部著シク磨滅シ右側ノ齒ハ尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅セリ第三,第二及第一前臼齒並ニ第一,第二後臼齒ハ齒根部ニ至ルマテ著シク磨滅シ第三後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シタリ今第四前臼齒ヨリ順次後方ニ向ツテ夫々齒ノ高サヲ測定スルニ7mm, 7mm, 7mm, 7mm, 5mm, 5mm及8mmアリ　上顎ノ齒數ハ以上記スル處ノ22箇ナリ

下顎ノ齒ノ狀態　門齒並ニ犬齒ハ何レモ著シク磨滅シ其長サハ鉗齒ヨリ順次測定スルニ11.5mm, 20.5mm, 15mm及14mmアリ

第四前臼齒ハ右側ノ分ハ基部マテ磨滅シ左側ノモノハ尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅セリ第三前臼齒ハ尖端ノミ僅ニ磨滅シ第二及第一前臼齒ハ尖端稍著シク磨滅シタリ後臼齒ハ各3箇共ニ磨滅ノ程度著シク殊ニ第二後臼齒ニ在リテハ其前部後部共ニ齒質部著シク磨滅シ窪メリ　下顎ノ齒ハ以上記スル處ノ22箇ニシテ上下顎ノ齒數ノ合計ハ44箇ナリ

25)滿5歲6箇月ノ「バークシヤー」種牡ノ齒ノ狀態

「バークシヤー」種牡1847號,母ハート號父インターレスト號　大正八年(1919年)四月二十四日生レ大正十三年(1924年)十月三日拂下,後間モ無ク屠殺ス

上顎ノ齒ノ狀態　門齒及犬齒ハ齒冠部著シク磨滅シタリ第四及第三前臼齒ハ尖端部極メテ僅ニ磨滅シタルノミナリ第二,第一前臼齒並ニ第一,第二後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ殊ニ右側ノ第一及第二後臼齒ハ齒質部ニ至ルマテ腐朽セリ第三後臼齒ハ前半部ハ齒冠部稍著シク磨滅シタレトモ後半部ハ琺瑯質カ僅ニ磨滅シタルニ過キス　上顎ニ於ケル齒數ハ以上記スル處ノ22箇ナリトス

下顎ノ齒ノ狀態　門齒ハ齒冠部著シク磨滅シテ犬齒ハ尖端及後面

稍著シク磨滅シ第四及第三前臼齒ハ殆ト完全ニシテ磨滅シタル部分ナシ第二及第一前臼齒ハ尖端僅ニ磨滅シタルノミナリ後臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ殊ニ第一及第二後臼齒ニアリテハ齒質部著シク窪メリ　下顎ノ齒數ハ合計22箇ニシテ上顎ノ齒數ヲ合計スル時ハ44箇トナル　此「バークシヤー」牡1847號ノ頭蓋骨ノ下緣長ハ26cm　同上緣長ハ27.6cm,上顎骨ノ最大幅ハ19.9cmアリ

26)滿6歲3箇月ノ「バークシヤー」種牝ノ齒ノ狀態

「バークシヤー」種牝2453號(耳標195)母「バージニア號父セーバー　大正十年(1921年)九月二十日生レ昭和二年(1927年)十二月屠殺ス頭蓋骨ノ下緣長ハ27.8cm同上緣長ハ26.7cm同最大幅ハ18.2cmアリ

上顎ノ齒ノ狀態　上顎ノ齒數ハ20箇ニシテ門齒ノ隅齒ハ存在シタル形跡ナシ以上ノ齒ノ內第四及第三前臼齒ノミハ其尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅シタルニ過キサレトモ他ノ齒ハ盡ク齒根部ニ達スルマテ著シク磨滅セリ　特ニ第一前臼齒第一及第二後臼齒ハ磨滅ノ程度甚シクシテ齒質ハ中央深ク陷窪セリ

下顎ノ齒ノ狀態　齒數ハ20箇ニシテ第四前臼齒ハ存在シタル形跡ナシ　第一第二及第三前臼齒ハ尖端部ノミ磨滅シタルニ過キサレトモ他ノ凡テノ齒ハ顯著ニ磨滅シ殊ニ第一及第二後臼齒ハ磨滅ノ程度著シク齒質部ハ深ク窪メリ

27)滿6歲7箇月ノ「バークシヤー」種牝ノ齒ノ狀態

「バークシヤー」種牝2997號(耳標156號)　大正十一年(1922年)二月二十五日生レ昭和四年(1929年)七月十二日屠殺ス(蕃殖不能トナリタル爲)生產地濱松

上顎ノ齒ノ狀態　第四前臼齒ハ殆ト完全ニシテ其尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅シタルノミナルモノヲ除ク時ハ他ノ20箇ノ齒ハ著シク磨滅セリ　殊ニ第二,第一前臼齒及第一,第二後臼齒ハ齒根ニ達スルマテ著シク磨滅セリ

下顎ノ齒ノ狀態　第四前臼齒カ極メテ僅ニ磨滅シタルノミニテ殆ト完全ナルヲ見ルノミニテ他ノ齒ハ何レモ著シク磨滅セリ殊ニ第一及第二後臼齒ハ最モ著シク磨滅シ齒質部著シク窪メリ

28) 滿 8 歲 4 箇月ノ「パークシヤー」種牝ノ齒ノ狀態

「パークシヤー」種牝 2446 號(耳標 63 號) 大正十年(1921 年)三月二日生レ昭和四年(1929 年七月十二日屠殺ス(蕃殖不能トナリタル爲) 生産地 濱松

上顎ノ齒ノ狀態 第四前臼齒ハ齒冠部僅ニ磨滅シタルノミナリ他ノ 20 箇ノ齒ハ盡ク著シク磨滅シ殊ニ右側第一後臼齒ハ自然脫落セリ第二後臼齒ハ齒根ニ達スルマテ著シク磨滅セリ

下顎ノ齒ノ狀態ハ第四及第三前臼齒ハ極メテ僅ニ磨滅シタルノミニシテ他ノ齒ハ何レモ著シク磨滅破損セリ

四 結 論

「パークシヤー」ノ齒ノ發育狀況並ニ年齡ノ進ムニ從ヒテ現出スル形態ノ變化ニツキ研究シタル結果ヲ述フレハ次ノ如シ

1) 犬 齒

生産當日ニ於テ乳齒犬ハ id3 ニ密接シテ其後方ニ生シ細長尖銳ニシテ外側ニ向ヒ高サ上顎ノモノハ 6mm 內外、下顎ノモノハ 7mm 內外アリ生後 37 日ヲ經タル後ニ於テモ此齒ノ大サニハ殆ト變化ナシ 生後 88 日前後ニ於テ下顎ノ乳犬齒ハ磨滅シ始ム 生後 8 乃至 9 箇月ニシテ初メテ永久齒ノ犬齒(c)ハ上顎骨ノ表面ニ露出ス 下顎ニ在リテハ犬齒ノ乳齒ハ生後 9 箇月ニシテ旣ニ脫落シテ存在セサルモ永久齒犬齒ハ尙顎骨內ニ在リテ其ノ表面ニ露出スルニ至ラス 下顎ニ在リテハ永久齒犬齒ハ生後 9 乃至 10 箇月ニシテ初メテ顎骨ノ表面ニ露出ス生後 17 箇月ニ於テ已ニ下顎ノ犬齒ハ其末端ハ僅ニ磨滅セリ 上顎ノ犬齒ハ生後約 2 箇年ニ於テ其尖端ハ極メテ僅ニ磨滅シタリ

滿 3 歲 3 箇月ニ至リテ犬齒ハ尖端並ニ其附近著シク磨滅ス 然レトモ個體ニヨリテハ犬齒ハ生後滿 4 歲 4 箇月ニ至ルモ尙其尖端ノミ極メテ僅ニ磨滅シタルニ過キサルモノアリ 滿 5 歲 3 箇月ニ至リテ上顎及下顎犬齒ノ齒冠部ハ殆ト全部破損磨滅シタルモノアリ

滿 8 歲 4 箇月ニ至リテハ上下顎共ニ犬齒ハ著シク磨滅破損セリ

2) 隅 齒

生產當日ニ於テハ乳隅齒(id3)ハ細長尖銳ニシテ其形狀ハ乳犬齒(cd)ニ酷似シ發生ノ方向ハ外側ニ向ヒ高サ上顎ノモノハ7乃至9mm,下顎ノモノハ6.5mmアリ 生後88日ヲ經過シタル後ニ於テ檢スルニid3ハ其長サニ於テハ生產シタル當日ト比較シテ何等其形體ヲ增加シタル模樣ナシ唯生後88日目ノid3ニ在リテハ其尖端ハ磨滅シ破損セリ 生後118日ヲ經タル齒ニ就テ見ルモ形體ニ變化ナシ上顎ニ在リテハ 生後8乃至9箇月ニシテ初メテid3ハ永久齒iIIIト交代スルコトヲ知ル 生後9ケ月ニ於テiIIIハ高サ4.5mm內外前後ノ長サ8mm內外アリ然ルニ個體ニヨリテハ生後2箇年ヲ經過スルモ尙iIIIノ發生ヲ見サルモノアリ 生後滿4歲2箇月ニ至リテ上顎及下顎ノ隅齒ハ齒冠部稍著シク磨滅ス 5歲6箇月ニ至リテハ上下兩顎共ニ隅齒ハ著シク磨滅シ滿8歲4箇月ニ至リテ殆ト隅齒ハ磨滅シ盡シ破損シ盡セリ

3) 鉗齒 (乳鉗齒=id1 永久齒鉗齒=iI)

生產當日ニ於テハid1ハ其頂點ヲ極メテ僅ニ顎骨ノ表面ニ露出セリ其高サ上顎ノモノハ約1mm,下顎ノモノハ3mmニシテ齒齦ノ表面ニハ未タ露出スルニ至ラス 生後11日ニ於テハid1ハ其長サ2mm下顎ノモノハ4mmニ達シ14日ニシテ上顎ノモノハ4mm下顎ノモノハ高サ6mmニ達シ生後25日ニシテ鉗齒ノ表面ヨリ極メテ明白ニ見ルコトヲ得 生後36日ニシテ上顎ノモノハ高サ6mm,下顎ノモノハ高サ12mm(牡)ニ達シ生後88日ニシテ高サ上顎ノモノハ10mm,下顎ノモノハ高サ15mmニ達シ生後9箇月ニシテ牝ハ上顎ニアリテハid1ハ其基部ノ後方ニ於テ永久齒iIカ將ニ顎骨ノ表面ニ露出セントシテ其頂部ヲ顯ハスヲ見ルid1ノ最高ハ8mmアリ其末端ハ著シク磨滅セリ下顎ニ在リテハ生後9箇月ニシテ鉗齒ハ尙乳齒ノ儘ニシテ永久齒ハ少シモ發生シタルヲ認メス 生後17箇月ニシテ上顎鉗齒(iI)ハ高サ21mmアリ前後ノ方向ニ測リタル長サハ約10mmアリ(牡) 下顎ノ鉗齒(iI)ハ高サ21mmアリ 生後3歲3箇月ニシテ上顎ノ鉗齒(iI)ハ尖端極メテ僅ニ磨滅シタルノミニシテ他部ハ完全ナリ下顎ノ鉗齒ハ著シク磨滅シ磨滅面ハ略五角形ヲ爲

ス歯ノ最高24mmアリ　満3歳10箇月ニシテ上顎鉗歯(iI)ハ歯冠部著シク磨滅シ歯ノ最高15mmアリ　下顎ノ鉗歯ハ歯冠部ノ尖端著シク磨滅シ高サ19mmアリ　生後8歳4箇月ニ至リテハ歯根ニ至ル迄著シク磨滅破損セリ

4) 中歯 (乳歯ハid2, 永久歯ハiIIヲ以テ示ス)

生後36日ヲ經テ初メテ(「パークシヤー」牡ニ就テノ觀察ヲ記ス)上顎ニ於テ顎骨ノ表面ニid2ノ小點ヲ顯ハス下顎ニ於テモid2ハ尖端ノミ極メテ僅ニ顎骨ノ表面ニ露出ス其高サ1mmアリ　生後88日ニシテ上顎ノモノハ高サ1mmアリ下顎ノモノハ10.5mmアリ　生後118日ニシテid2ハ歯齦ヲ破ツテ露出スルモ尙極メテ小形ナリ　生後9箇月ニシテ上顎ノid2ハ既ニ永久歯ト交替スヘキ時期ニ到達シタルヲ知ル　卽チ右側ノモノハ尙乳歯ノ儘ナレトモ末端ハ著シク磨滅シ高サ4mmニ過キス　左側ニ在リテハ中歯ハ既ニ永久歯(iII)ニシテ高サ3mm美白色ヲ呈ス下顎ニ在リテハ中歯ハ尙乳歯ノ儘ニ殘存セリ　然ルニ個體ニヨリテハ生後17箇月ヲ經タル(「パークシヤー」雜種牡)モノニ在リテモ尙上顎ノ中箇ハ其尖端カ殆ト未タ顎骨ノ表面ニ露出セサルモノアリ　但此場合ニ於テ下顎ノ中歯ハ其長サ既ニ16mmニ達セルヲ知ル

更ニ生後滿2箇年ヲ經過シタル「パークシヤー」種牝ニ就テ見ルニ上顎ノ中歯ハ右側ニ在リテハ乳歯カ永久歯ニ壓セラレテ將ニ脫落セントスルノ狀ヲ呈シ生シタル永久歯ハ高サ7mmニ達セルヲ見ル　左側ニ於テハid2ハ已ニ脫落シiIIノ發生ヲ見ル　下顎ニ在リテハiIIハ左右共ニ著シク磨滅シ高サ13mmニ過キス　生後2歳9箇月ノ「パークシヤー」牝ニ就テ調査スルニ上顎ノiIIハ高サ7mmアリ完全ニシテ未タ磨滅シタル部分ナシ　然ルニ同上牝ノ下顎ノiIIハ其尖端及其附近稍著シク磨滅セリ高サ30.5mmアリ　滿3歳10箇月ニ至リテハ上下顎ノiIIハ歯冠部稍著シク磨滅シ生後4歳4箇月ニ至リテ(「パークシヤー」牡)上下顎ノiIIハ歯冠部著シク磨滅シ滿6歳3箇月ニ至リテハ上下顎ノiIIハ歯根部ニ達スルマテ著シク磨滅セリ滿8歳4箇月ニ至リテハiIIハ極

メテ著シク磨滅破損セリ

5) 第二前臼歯(乳歯 = pd2 永久歯 = p2)

生産シタル當日ノ「パークシヤー」種ニアリテハ上顎ノ pd2 ハ極メテ僅カニ顎骨ノ表面ニ露出セリ其形狀ハ前方幅狹ク後方ハ廣ク橫斷面ハ略等脚三角形ヲ爲ス 下顎ニ在リテハ pd2 ハ未タ顎骨ノ表面ニ露出セス生後11日ニシテ上顎ノモノハ高サ5mmニ達シ下顎ノ pd2 ハ生後11日ニシテ極メテ僅ニ其上端ヲ顎骨ノ表面ニ露出セリ其高サ1mmアリ

生後36日ニシテ(「パークシヤー」種牡ニ就テ記ス)上下顎共ニ pd2 ハ高サ7mmアリ 生後9箇月ニシテ(「ピークシヤー」牝ニ就テ記ス)上顎ノ第二前臼歯ハ尙乳歯ノ儘ニ殘存セリ其歯冠部ハ著シク磨滅シ殆ト箇根ノミ殘存セリ以テ將ニ脫落ノ時期ノ近キヲ思ハシム 下顎ノ pd2 モ尙乳歯ノ儘ニ殘存セリ 生後17箇月ニシテ上下顎ノ p2 ハ高サ 12mm ニ達シ4歳4箇月(牝)ニシテ p2 ハ上顎ニ在リテハ歯冠部著シク磨滅シ歯質部ハ著シク窪メリ下顎ニ在リテハ p2 ハ其尖端カ僅ニ磨滅シタルノミニシテ他部ハ殆ト完全ナリ 5歳3箇月(牝)ニ至リテハ歯根部ニ至ルマテ著シク磨滅シ下顎ニ在リテハ p2 ハ其尖端カ稍著シク磨滅シタルノミナリ 滿8歳4箇月ニ至リテハ上下顎共ニ p2 ハ何レモ極メテ著シク磨滅シタリ

6) 第一前臼歯(乳歯 = pd1 永久歯 = p1)

上顎ニ於テハ pd1 ハ生産當日ノ子豚ニ於テハ未タ顎骨ノ表面ニ露出セス下顎ニ在リテハ pd1 ハ其頭部ヲ極メテ僅ニ顎骨ノ表面ニ露出セリ最高2.5mmアリ 生後11日ニ於テ上顎ニ於テハ pd1 ハ未タ顎骨ノ表面ニ露出スルニ至ラス下顎ニ於テハ pd1 ハ稍成長シ高サ5mmアリ生後36日ニシテ上顎ニ初メテ pd1 ノ出現スルヲ見ル下顎ニ在リテハ生後36日ニシテ旣ニ高サ7mmニ達ス 生後9箇月ヲ經ルモ尙第一前臼歯ノ儘ニ殘存セリ而シテ上顎ノモノニ在リテハ其歯冠部ハ著シク磨滅シ前後部共ニ中央ハ凹メリ 上顎第一前臼歯カ永久歯ニ交替スルノ時期ハ生後10箇月ノ頃ナルヘシ生後3歳10箇月(牡)ニ至リテ上顎ノ第

一前臼齒ハ齒冠部著シク磨滅シ中央ハ著シク窪メリ此齒ノ最高ハ 8 mm アリ而シテ下顎ノ第一前臼齒ハ尖端ノミ稍著シク磨滅シ其最高ハ約9mm アリ　生後 8 歲 4 箇月ニ至リテハ上下顎共ニ何レモ極メテ著シク磨滅シタリ

7) 第三前臼齒(乳齒 = pd3 永久齒 = p3)

「バークシヤー」種牡ノ生後36日ヲ經タルモノニ就テ調査スルニ上顎下顎共ニ pd3 ハ其尖端ノミ極メテ小サキ點トシテ顎骨ノ表面ニ露出セリ　生後 9 箇月目ニ於テモ第三前臼齒ハ尙乳齒ノ儘ニ存スルアリ或ハ已ニ乳齒ハ永久齒ニ替リタルモノアリ　生後 8 歲 4 箇月ニ至リテ上顎ノ第三前臼齒(p3)ハ著シク磨滅シタルモ下顎ノ p3 ハ極メテ僅ニ磨滅シタルニ過キス

8) 第四前臼齒(永久齒 = p4)

第四前臼齒發生ノ時期ハ個體ニヨリテ一樣ナラス或ハ全ク發生セサルモノアリ

個體ニヨリテハ生後37日ヲ經タル子豚ノ上顎ニ於テ pd4 ノ尖端ソミ小點トシテ顎骨ノ表面ヨリ見ルコトヲ得　下顎ニ於テハ生後88日ニシテ pd4 ノ尖端カ小點(直徑 2mm)トシテ顎骨ノ表面ニ露出スルヲ見ル生後滿二年目ニ至リテ上顎ノ p4 ハ稍著シク磨滅シ高サ 3mm トナルモノアリ或ハ又生後滿 8 歲 4 箇月ニ至リテモ尙 p4(上下顎ノ)ハ齒冠部僅ニ磨滅シタルノミナル場合モアリテ一定セス

9) 第一後臼齒 (m_1)

第一後臼齒ハ他ノ後臼齒ニ於ケルト同樣乳齒ヲ有セス最初ヨリ永久齒トシテ發生ス上下顎共ニ(m_1)カ顎骨ノ表面ニ初メテ露出スルハ生後 4 箇月ノ頃ナリ　生後5箇月ニシテ(m_1)ハ既ニ齒齦ヲ破ツテ露出ス

生後 5 歲 3 箇月ニ至リテハ(m_1)ハ磨根部ニ至ルマテ著シク磨滅シ滿 8 歲 4 箇月ニ至リテハ m_1ハ著シク磨滅シ或ハ自然脫落ス

10) 第二後臼齒 (m_2)

上顎ニ於テハ生後 9 箇月ニシテ既ニ高サ10mmニ達シタルヲ見ルニ

此歯カ上顎骨ノ表面ニ初メテ露出スルハ生後7箇月ノ頃ナリト思料ス　而シテ下顎ニアリテハ(m_2)ハ生後9箇月ノ頃ニ於テ初メテ顎骨ノ表面ニ露出ス　生後8歳4箇月ニ至リテハ(m_2)ハ上下顎共ニ極メテ著シク歯根ニ至ルマテ磨滅ス

11)第三後臼歯(m_3)

此歯ハ豚ノ生後9乃至10箇月ニシテ已ニ上顎骨ノ表面ニ露出スルモノアリ或ハ生後17箇月ノ頃ニ於テ初メテ顎骨ノ表面ニ露出スル場合アリ此歯ハ生後8歳4箇月ニ於テ著シク磨滅破損ス

12)満4歳6箇月以後ノ「バークシヤー」種ハ其歯ノ磨滅ノ程度概ネ顕著ニシテ飼料ノ咀嚼上ニ及ホス悪影響鮮少ナラス　従ツテ飼料ノ消化ニ影響ヲ及ホスコトハ明白ニシテ間接ニハ牝ニアリテハ蕃殖スヘキ子豚ノ栄養上ニ不良ノ結果ヲ来ス場合少シトセサルヘシ

昭和六年十月二十五日印刷
昭和六年十月二十八日發行

臺灣總督府中央研究所

臺北市榮町二丁目十二番地
印刷者　加藤豐吉

臺北市京町一丁目四三番地
印刷所　小塚本店印刷工場